

ANNUAL REPORT

2018 – 2019

No. 42



Department of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済、経営、都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的、数理的、計量的）アプローチによって解明し、政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2019 年 4 月現在の本域所属の教員は、教授 18 名、准教授 24 名、講師 2 名、助教 10 名の合計 54 名、連携大学院教員 8 名（教授 6 名、准教授 2 名）を加えると 62 名である。それぞれの構成員は、国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の 2018 年度中の研究・教育活動は、以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本域の研究活動は、2018 年度も全分野（社会経済、経営工学、都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては、最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入にも努め、外部研究資金を着実に獲得している。2018 年度の科学研究費の採択本数は 20 件（基盤(A)1 件、基盤(B)6 件、基盤(C)4 件、挑戦的萌芽 3 件、新学術領域 1 件、若手 5 件）、継続 21 件（基盤(B)4 件、基盤(C)5 件、挑戦的萌芽 7 件、若手 5 件）と合わせると 41 件となる。

また、研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2019 年 5 月現在、リサーチユニット 9 件、リサーチグループ 9 件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして、2014 年度より、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻を改組し、社会工学専攻が発足した。その中で博士前期課程(システム情報工学研究科)においては社会工学学位プログラムとサービス工学学位プログラムの二本柱で教育を推進し、リスク工学専攻、生命環境科学研究科環境科学専攻においても教育活動を行っている。一方、博士後期課程(システム情報工学研究科)では、社会工学専攻に加え、旧課程である社会システム・マネジメント専攻の他に、リスク工学専攻において教育活動を行っている。生命環境科学研究科持続環境学専攻でも研究指導を行っている。さらに本域では、理工学群社会工学類、および社会・国際学群国際総合学類の学類教育も担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。社会工学専攻では改組前の 2007 年度より、博士後期課程で「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」を通じて社会人を継続的に受け入れている。2008 年度からは院生活動支援プロジェクトを実施し、専攻独自の予算で学生の国内外の研究発表を経済的に支援している。さらに 2017 年には社会工学学位プログラム内に社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」が開設され、サービス工学学位プログラムとともに、本学に 2017 年 4 月に開設された未来社会工学開発研究センターと人工知能科学研究センターの活動に貢献する体制を整えた。

かねてより社会工学専攻ならびに社会工学類では、教育の高度化を目指し、グループ作業、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。これらの教育では卒業生による協力も大

きい。社会工学同窓会，社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に，2007 年から社会工学類の優秀な卒業生 3 名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも，様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は，清華大学，浙江大学，北京航空航天大学，香港理工大学（中国），漢陽大学校，弘益大学校，韓国国土研究院，ソウル市立大学校（韓国），ウィーン経済・経営大学（オーストリア），交通通信大学（ベトナム），ルール大学ボーフム校（ドイツ），アル・アハワイン大学（モロッコ）等，多岐にわたっている。特に 2016 年 9 月にベトナムの首都ハノイにおいて開学した「日越大学」，ならびに筑波大学における世界展開力強化事業では，本域の教員が多数協力を行っている。

また実学も重視しており，国，自治体，企業などとの連携も含め多様な社会貢献，地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や，茨城県内 5 市（北茨城市，高萩市，神栖市，潮来市，鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において，本域教員が中心的役割を果たした。また，多数の出張講義・公開講座，本学主催の高大連携シンポジウム開催，自治体からの受託研究の実施、国・自治体の各種委員への就任など社会連携活動へ大いに貢献した。2017 年 4 月からは社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」も開設され，産官学連携活動もきわめて活発に行われている。

(4) 組織

本域教員の流動性が高く，それに伴い審査付学術論文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし，昨今の採用人事制度の変更に伴い，優秀な人材を確保・維持していくためには，組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は，様々な研究分野・職歴・国籍をもち，工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで，若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が，相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには，研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し，中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に，研究，教育，学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により，社会的説明責任を果たさなければならない。特に本学に 2017 年 4 月から開設された未来社会工学開発研究センターならびに人工知能科学研究センターとの連携では，本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに，本域の研究・教育両面での新たな飛躍が期待されている。組織力を生かした運営を通じ，社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに，本域の活動を知っていただく上で有効に活用されれば幸いである。

2019 年 5 月 20 日

社会工学域長，社会システム・マネジメント専攻長，社会工学専攻長

藤川 昌樹

大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。
2017年	社会工学学位プログラム内に、地域未来創生教育コースが開設される。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2019/5/30 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス組織の経営学(人社系)	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。	生稻 史彦
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業体が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三

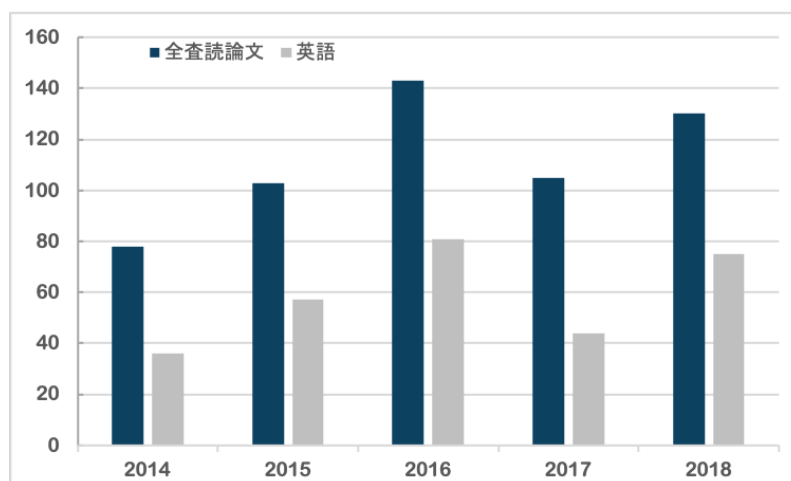
価値創造(複合系)	ビッグデータが注目される中、複数の情報を組みあわせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。	繁野 麻衣子
空間情報の社会的活用(複合系)	地理情報はビッグデータの時代を迎えて、IoT 化の進展や ICT 技術により大量化・高度化しているが、近年重要性を増している情報技術の社会実装と政策展開の課題のなかで、有効かつ的確に活用する可能性が広がっているにも関わらず、いまだその活用は不十分である。本リサーチユニットは、未来社会の空間設計に向けて、地理情報ビッグデータの集約と活用方法の開発、そして、数理モデリング技法による空間意思決定方法への応用の研究を推進することを目的とする。この活動により、犯罪・災害などのリスクに対する安全研究、安全・効率的で環境負荷の少ない交通体系の研究、老朽化する都市基盤施設の維持更新や集約型のコンパクト・アンド・ネットワーク型の都市計画の研究等において、これまでの方法では見えてこなかった空間データを応用した意思決定の社会実装方法や、即効性の高い政策展開を支える社会的な仕組みを提示することができるようになることを目指す。	鈴木 勉

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員(2019/5/30 現在)

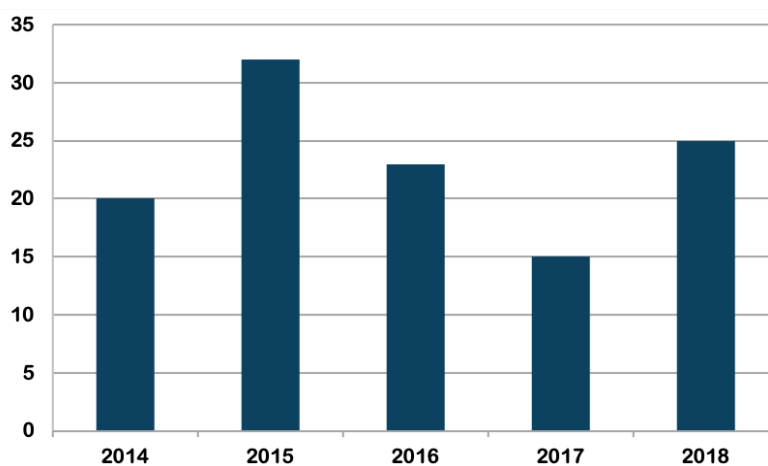
課題名	概要	代表者
マネジメント・サイエンス・経済学・心理学にわたる学際研究	社会工学域所属の6(昨年度までは4名)名の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・産業組織論・マーケティング)および経済学(ミクロ経済学・産業組織論)分野の共同学際研究	渡辺 真一郎
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を超えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループでは、環境経済学、都市環境計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPSタクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩
都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援や交通安全教育など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	谷口 綾子
地理情報の解析と視覚化	数理科学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明

社会メカニズム工学	<p>複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。</p> <p>・キーワード: マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス</p>	秋山 英三
マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用	<p>本研究は、個人や家計の選好パラメータを推定する新たなマイクロ計量経済学的手法の開発とその応用、及び実証モデルの基礎となる経済理論モデルの構築を行うことを目的としている。</p>	大久保 正勝
都市・地域の経営とデザイン	<p>分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。</p>	有田 智一

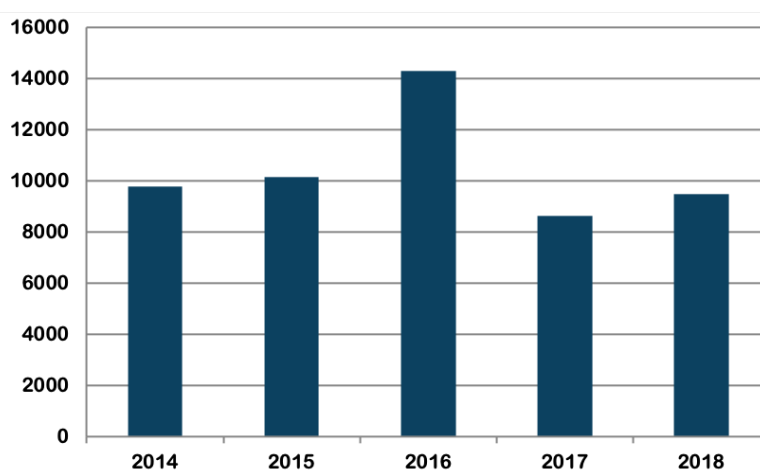
教員過去5年間の論文数



教員過去5年間の著書数



科研費合計額（単位：万円、直接＋間接経費、代表者が社工教員）



II. 教員一覽

2019/3/31 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション、行動実験	資産市場取引におけるバブル発生機構の研究、協力行動の進化の研究、力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
糸井川 栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
イリチュ(佐藤) 美佳	統計科学、多次元データ解析	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
大澤 義明	都市計画、地域科学	MaaS と都市計画、公共施設マネジメント、災害復興、住民投票の意義、税競争と調和、夜景、世界の研究学園都市、立地論
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共情報共有による問題解決、都市開発分野の国際協力
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	都市解析、立地科学、地理情報科学	計画数理、立地分析、施設配置計画、都市形態、公共サービス、公共交通計画、都市リスク管理、地理情報の応用
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル
中村 豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	デジタル指紋符号・グループ検査方式・多元接続通信符号・分散ストレージシステム符号・プライバシー保護方式の構成及びアルゴリズムの開発

村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
渡辺 俊	建築情報学、都市情報学、空間情報学、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究
渡辺 真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人－仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理学研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
安東 弘泰	数理工学、非線形ダイナミクス	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用
生稲 史彦	製品開発論、技術マネジメント、経営学	コンテンツ及びサービス分野における開発活動のマネジメント、ITと企業経営、イノベーション
石井 健一	コミュニケーション、情報社会	インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動、コンテンツ消費、広告の心理的効果、広告の内容分析、新製品の普及過程のモデル
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般：後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造

奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発
甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
倉田 久	サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理	製販連携、サービス・オペレーション、アフターサービス、小売オペレーション
小西 祥文	実証ミクロ経済学、応用計量経済分析	交通と環境、需給の構造推定、規制と技術変化、統計的因果推論
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
Stephen John, Turnbull,	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
高野 祐一	数理最適化、金融工学、機械学習	ポートフォリオ選択、統計的モデル選択、商品推薦アルゴリズム、数理最適化技法（数理モデル・アルゴリズム）の開発と応用
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスクコミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション、新技術の社会的受容
Phung-Duc, Tuan	応用確率論、確率モデル、待ち行列理論、性能評価、オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、建築規制・まちづくり法制、地区まちづくり、住環境整備	都市計画制度の活用効果と課題、地域独自のルール・仕組みづくり、地域住民等の発意を活かした地区まちづくり、既成・郊外住宅地や住宅団地の再生、地域資源を活用したまちづくり
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市計画史
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	生産システム工学、オペレーション管理、技術経営、コンピューターデバイス	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法、超受注生産システム、技術経営と地域活性化（経営管理 DMAIC-PDCA サイクルを念頭においた IoT・ビッグデータ解析と計画最適化の応用研究を含む）
近藤 文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次 POS データの価格反応モデル分析

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
阿武 秀和	理論経済学	ミクロ経済学、マーケットデザイン
五十嵐 岳	数理統計学	ノンパラメトリック推定
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本（教育水準や健康）の蓄積に与える影響に関する実証研究
折原 正訓	企業金融・企業統治、税制、法と経済学	税制・法制度など公共政策と企業金融・企業統治との関係の実証分析
黒瀬 雄大	統計、計量経済学	ベイズ統計学、状態空間モデル
佐野 幸恵	社会経済物理、ネットワーク科学、ウェブサイエンス、計算社会科学	社会現象における普遍則の抽出、ソーシャルメディア分析、大規模データ解析
Tran Lam Anh, Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ

氏 名	秋山英三	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

2. 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論

大学院前期課程

社会シミュレーション

3. 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学学位 P（前期）5人／社会工学学位 P（後期）2人

4. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究 (C) 市場参加者の異質性とその認識が資産価格変動に与える影響（代表）
- 基盤研究 (A) 制度・認識・社会正義の経済学の構築に向けて（代表者：金子守）
- 基盤研究 (B) 高次報酬懲罰系による 社会的ジレンマの解決（代表者：鳥海不二夫）
- 基盤研究 (B) 肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築（代表者：栗野盛光）
- 基盤研究 (C) 地域社会の危機管理能力強化のための公共政策:公共財理論とネットワーク科学の融合（代表者：藤本茂）

◆ 著書・論文等：

- ・ 横手 美史暢, 秋山 英三. Axelrod の文化の伝播モデルにおけるエージェントの移動と全体情報の影響の分析, The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS) 2018, 8 pages, (2018). 査読有.
- ・
- ・ 矢澤 直人, 秋山 英三. 繰り返し相互扶助ゲームにおける協利行動の進化を促すメカニズムの提案, The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS) 2018, 8 pages, (2018). 査読有.

◆ 学会発表等：

Akiyama, E. (with Mizuno, M., Ono, M.), "Experimental evidence on incentive mechanisms," Hawaii International Conference on System Sciences, Janually 8, 2019, ,

Hawaii, USA. 招待講演

Akiyama, E. (with Hoshihata, T., Ishikwawa, R., and Hanaki, N.), "Flat Bubbles in Long Horizon Experiments: Results from Two Market Institutions," 第22回実験社会科学カンファレンス, December 23, 2018, 名古屋市立大学.

◆ その他：

5. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・全学 副学長補佐
- ・全学 教育企画室 室員
- ・全学 教育推進イニシアティブ機構 アドミッション・タスクフォース リーダー
- ・全学 教育推進イニシアティブ機構 SF 教育・タスクフォース リーダー
- ・全学 教育推進イニシアティブ機構 振り分け・タスクフォース
- ・全学 学術情報メディアセンター運営委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・学類 運営委員会委員
- ・専攻 運営委員会委員

6. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- ネットワークが創発する知能研究会 2018 プログラム委員
- JAWS2018 (Joint Agent Workshops and Symposium 2018) プログラム委員

氏 名	雨宮 護	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市・地域・環境を探究 I／住まいと居住環境の計画／都市計画情報実習／現代まちづくりの理論と実践／住環境計画実習／都市計画事例講義および実習

大学院：都市と環境／プレイスメイキング／ファシリテーター育成プログラム・ファシリテーター育成プレプログラム（「多文化共生のためのコミュニティガーデンの計画と運営」）

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 人／社会工学専攻（前期）5 人／社会工学専攻（後期）3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「地理的犯罪予測の手法構築：学際研究と産官学連携による学術基盤の確立とシステム開発」，研究代表者（2017 年度～2020 年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「高齢化・人口減少時代の近隣レベルの犯罪統制：主体間の効果的連携に向けて」（代表：小林寿一（科学警察研究所犯罪行動科学部長）），分担研究者（2017 年度～2019 年度）
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 B）「「農」を用いたコンパクトシティの土地利用整序を実現する新たな中間組織の解明」（代表：横張真（東京大学工学系研究科教授）），分担研究者（2016 年度～2018 年度）
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「子どもの犯罪被害の前兆的事案調査法の開発と妥当性評価」（代表：原田豊（科学警察研究所犯罪行動科学部特任研究官）），分担研究者（2016 年度～2018 年度）
5. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 A）「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」（代表：逢坂卓郎（筑波大学芸術系特命教授）），分担研究者（2018 年度）
6. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基

盤 C)「割れ窓理論再考:秩序違反行為に影響するメソレベル環境要因の特定と実証的介入」(代表:島田貴仁(科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長)), 分担研究者(2014年度~2018年度)※期間延長

7. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(挑戦萌芽)「集合住宅における子ども・女性に対する犯罪の実態分析と対策立案」(代表:樋野公宏(東京大学工学系研究科准教授)), 分担研究者(2018年度~2020年度)
8. 日本パナユーズ株式会社「警備業の最適化のための産学共同研究」, 代表, (2017年度~2018年度)
9. 株式会社プレイスメイキング研究所「プレイスメイキング手法による住宅地への農作物栽培サービスの提供の実証実験」, 2018年度~2019年度
10. 独立行政法人都市再生機構「震災復興のための地域資源利活用方策に関する研究」(2018年度)

◆ 著書・論文等:

(査読付学術雑誌掲載論文)

1. Kimihiro Hino and Mamoru Amemiya (2019) Spatiotemporal Analysis of Burglary in Multifamily Housing in Fukuoka City, Japan, *Cities* (90), 15-23.
2. 村中大輝・雨宮護・樋野公宏(2018) 地方自治体による監視性の確保を目的とした防犯施策の計測と評価, 都市計画論文集, 53 巻 3 号, pp.1537-1543.
3. 藤本典志・大山智也・雨宮護(2018) 総合リユース店舗における万引き被害の空間的特徴, 都市計画論文集, 53 巻 3 号, pp.603-609.
4. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2018) Applying Crime Prediction Techniques to Japan: A Comparison between Risk Terrain Modeling and Other Methods, *European Journal on Criminal Policy and Research*, 24(4), 469-487.

(総説・報告)

(審査のない雑誌論文・紀要)

1. 大山智也・雨宮護(2018) 特殊詐欺被害と ATM のおかれた物理的・社会的環境との関連性, 地理情報システム学会講演論文集, 27, CD-ROM
2. 高橋あい・雨宮護・島田貴仁(2018) 子供・女性を対象とした脅威事案に関する時空間分析: 時間帯と地域特性を考慮した近接反復被害仮説の検証, 地理情報システム学会講演論文集, 27, CD-ROM
3. 雨宮護・島田貴仁・中谷友樹・樋野公宏・高橋あい(2018) 子供・女性に対する脅威事案は性犯罪等のリスクを高めるか?: 子供・女性の性犯罪等における先行指標の検討, 都市計画報告集, 17, pp.216-222 (Web で入手可能)
4. 大原光代・雨宮護(2018) 組織間連携に着目した地方自治体による子どもの貧困対策の取り組み実態: 大都市基礎自治体を対象として, 都市計画報告集, 17, pp.122-128

(Web で入手可能)

5. 大山智也・雨宮護 (2018) 地理的犯罪予測と人の流れデーター犯罪抑止要因としての「人の目」と Risk Terrain Modeling—, 信学技報, 電子情報通信学会, pp.38-41.

◆ 学会発表等:

1. 大山智也・雨宮護 (2019) 還付金詐欺の被害予測にむけた分析 ～無人 ATM のおかれた物理的・社会的環境との関連性～, IEICE HPB 第 20 回研究会, 東京大学生産技術研究所, 2019.02.15
2. 渡辺雄太・雨宮護 (2018) チリ・サンティアゴにおけるコミュニティガーデンに関する研究: 都市問題解決への可能性の検討, 日本造園学会関東支部大会, 宇都宮大学, 2018.12.15 (梗概: 平成 30 年度日本造園学会関東支部大会梗概集, 36, 72-73)
3. 松本奈々・雨宮護 (2018) 水害被災地域における居住者の「思い出の場所」の世代間比較: 常総市を事例として, 日本造園学会関東支部大会, 宇都宮大学, 2018.12.15 (梗概: 平成 30 年度日本造園学会関東支部大会梗概集, 36, 68-69)
4. 村中大輝・雨宮護・樋野公宏 (2018) 地方自治体による監視性の確保を目的とした防犯施策の計測と評価, 日本都市計画学会第 51 回学術研究論文発表会, 大阪大学, 2018.11.18.
5. 藤本典志・大山智也・雨宮護 (2018) 総合リユース店舗における万引き被害の空間的特徴, 日本都市計画学会第 53 回学術研究論文発表会, 大阪大学, 2018.11.17.
6. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2018) Risk Terrain Modeling and Crime Data: Developing a New Crime Prediction Methodology, Poster Session, ASC Annual meeting 2018, Atlanta, GA, November 13-17.
7. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2018) Crime Prediction of Imposter Scams: An Analysis on Environmental Settings of Unmanned ATMs, Regular Session, ASC Annual meeting 2018, Atlanta, GA, November 13-17.
8. 大山智也・雨宮護 (2018) 特殊詐欺被害と ATM のおかれた物理的・社会的環境との関連性, 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会「CSIS DAYS 2018」, 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト, 2018.11.3 (梗概: Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2018, p.59)
9. 大山智也・雨宮護 (2018) 環境要因と犯罪発生情報を組み合わせた犯罪予測手法の検討, 第 27 回地理情報システム学会研究発表大会企画セッション「学生フリーテーマ発表会」, 首都大学東京, 2018.10.21
10. 大山智也・雨宮護 (2018) 特殊詐欺被害と ATM のおかれた物理的・社会的環境との関連性, 第 27 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション, 首都大学東京, 2018.10.20-2018.10.21
11. 大山智也・雨宮護 (2018) 特殊詐欺被害と ATM のおかれた物理的・社会的環境との関連性, 第 27 回地理情報システム学会研究発表大会, 首都大学東京,

2018.10.20-2018.10.21（梗概：地理情報システム学会講演論文集，27，CD-ROM）

12. 高橋あい・雨宮護・島田貴仁（2018）子供・女性を対象とした脅威事案に関する時空間分析：時間帯と地域特性を考慮した近接反復被害仮説の検証，第 27 回地理情報システム学会研究発表大会，首都大学東京，2018.10.20-2018.10.21（梗概：地理情報システム学会講演論文集，27，CD-ROM）
13. 雨宮護（2018）都市の空閑地をどう活かすか？，第 4 回次世代交通基盤勉強会，常総市，2018.7.19.
14. 雨宮護（2018）犯罪予測の理論と実践例：海外動向と日本での可能性，第 6 回人工知能等活用検討会議，警察庁，2018.6.19.

◆ その他：

著書

報告書

1. 大澤義明・藤井さやか・雨宮護・山本幸子（2019）「都市をフィールドとした多世代，多文化，交流の拠点創出」，科学研究費基盤研究（A）「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」報告書，87pp.，pp.67-78.
2. 福岡県警察（2018）「犯罪予防研究アドバイザー制度研究成果報告書 No.2」，概要版
3. 筑波大学（2018）「茨城県守谷市「みずき野のこれからのまちづくりに関するアンケート」調査報告書」，98pp.

5. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

1. システム情報工学研究科広報委員
2. 大学の世界展開力強化事業（中南米との大学間交流形成支援）プログラム実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

1. 大学院社会工学専攻広報委員
2. 大学院入試実施委員
3. 社会工学類広報委員
4. 都市計画主専攻 4 年担任
5. 社会工学類卒業研究梗概集作成委員会（委員長）

6. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

（学会活動）

1. 日本都市計画学会社会連携委員会研究交流事業「実務と研究の連携のための研究会」メンバー（2017 年度～）
2. 日本都市計画学会「会長アドバイザー会議」委員（2017 年度～）

3. 日本都市計画学会社会連携委員会委員（2016 年度～）
4. 日本都市計画学会査読委員（2008 年度～2010 年度，2014 年度～）
5. 日本造園学会全国大会運営委員（2018 年度～）
6. 日本造園学会論文集委員会委員（2017 年度～（2017 年度～2018 年度幹事））
7. 日本造園学会総務委員会委員（2011 年度～2012 年度，2017 年度～）
8. 日本造園学会研究論文集校閲委員会委員（2007 年度～）
9. 日本環境心理学会運営委員会委員（2017 年度～）

（学外組織からの委嘱委員等）

1. 警察庁「子供と女性に対する犯罪等を防止するための対策に関する調査研究会」委員（2018 年度）
2. 茨城県「都市整備課指定管理者選定委員会」副委員長（2018 年度）
3. 北区「景観審議会」委員（2017 年度～）
4. 足立区「防犯まちづくり推進アドバイザー」（2017 年度～）
5. 市川市「空家等対策協議会」委員（2017 年度～）
6. 八潮市「都市計画審議会」委員（2017 年度～）
7. 神栖市「総合計画審議会」委員（2017 年度）
8. 公益財団法人日工組社会安全研究財団「防犯性に優れた大規模商業施設の普及促進に係る調査研究」委員（2017 年度）
9. 大阪府警察「防犯対策高度化協働研究会」委員（2017 年度～）
10. つくば市「生活安全推進協議会」副会長（2016 年度～）
11. 警視庁「子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会」委員（2016 年度～）
12. つくば市「都市計画審議会」委員（2016 年度～）
13. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015 年度～）
14. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015 年度～）

（一般向け招待講演）

1. 雨宮護（2018）振り込め詐欺に利用される現金自動預払機（ATM）の特徴：被害の「水際対策」に向けて，第二回福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー報告会，なみきスクエア，2018.11.30.

氏 名	有田 智一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域政策、都市計画制度、産業集積		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：社会工学実習、都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、都市・地域・環境を語るⅡ（総合科目）、建築関連法規（世話人教員）

社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ、社会工学ファシリテーター（国際交流ワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦Ⅰ（世話人教員）

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム（修士） 7 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム（博士） 2 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 建築技術教育普及センター調査研究助成「イギリスの建築・まちづくり分野に携わる建築技術者の実務研修等を支えるシステムに関する研究」（研究代表者）
- ・ 鹿島学術振興財団「公共貢献型都市開発の課題と今後の展開可能性—日本・アメリカ・イギリスの比較研究」（研究代表者）
- ・ 奨学寄附金（日本建築住宅センター）「都市開発・都市再生関連政策の実態と今後の展開に関する研究」（研究代表者）
- ・ 科学研究費補助金基盤研究 B「量から質へのシフトを実現するための緑地の計画制度・設計手法・運用方法の研究」（研究分担者）
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」（研究分担者）
- ・ 基盤研究 C「近現代都市計画・建築法制度の成立と変容をふまえた新時代の制度体系構築に関する研究」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

有田智一(2018)「市街地建築物法・建築基準法と建築学会 はじめに：日本建築学会建築法制委員会近代建築法制 100 周年記念活動支援小委員会」ビルディングレター2018.5、pp16-17.日本建築センター

有田智一(2018)「今後の土地・建物ストック活用型社会を踏まえた用途地域制の課題（特集 50 年目を迎えた都市計画法）」都市問題 109(11), 84-97, 2018-11、後藤・安田記念東京都市研究所

梶塚真良、有田智一(2018)「集合住宅の環境性能における消費者重要度と不動産価格の関連性に関する研究 ―自治体版 CASBEE の評価結果を用いた実証分析―」日本建築学会環境系論文集 (751), 791-799, 2018-09

川島宏一、有田智一、鈴木良介 (2018)「つくば市による心肺停止傷病者発生位置情報の最寄 AED 管理者との共有が生み出す協働による救命効果に関する研究：公共部門の内部データの外部共有が生み出す協働による問題解決効果に着眼して」計画行政 41(3), 33-41, 2018-08、日本計画行政学会

金崎健太郎、川島宏一、有田智一(2018)「マイナンバー導入事例に見る政府情報システム調達の現状に関する研究」、情報システム学会誌,Vol.14,No.1,2018-9-30,13-25.

◆ 学会発表等：

◆ その他：

招待講演” Challenges of Restructuring Public Housing Estates in Tokyo Metropolitan Suburban Areas by Urban Renaissance Agency in an Aging Society:Strategies of Urban Renaissance Agency and Struggles of Local Authorities” (Growing bad? The Regional Sub-Urban Housing Challenge.International Research Perspectives/ Symposium in Aachen, Germany, September 7th, 2018)

招待講演「海外都市再生の事例紹介：公民協働による都市再生」平成 30 年度 INEX 推進協議会 平成 31 年 1 月 29 日（新橋）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学つくば・地域連携推進室室員
地球規模課題学位プログラム運営委員会委員
日越大学公共政策プログラム担当
全学入試実施委員会

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類入試実施委員会委員長
建築士受験資格運営委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
東京都住宅政策審議会委員
東京都建築審査会委員
東京都江戸川区都市計画審議会委員
川崎市建築等紛争調停委員会委員
埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
千葉県松戸市建築審査会委員
守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長
守谷市空家等対策協議会座長
土浦市行財政改革推進委員会委員長
土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長
土浦市空き家等審議会委員長
古河市空き家等審議会委員長
神栖市都市計画マスタープラン策定委員会委員長
桜川市都市計画マスタープラン策定委員会委員
桜川市市有財産跡地等利活用審議会会長
阿見町都市計画審議会委員
日本建築学会建築法制委員会近代建築法制100周年記念活動支援小委員会主査
日本建築学会建築法制委員会人口減少時代のゾーニング検討小委員会委員
不動産学会論文著作賞選考委員会委員
都市住宅学会関東支部常議員
都市住宅学会学術委員会委員
都市住宅学会学会賞委員会委員

応用地域学会学術委員会委員

財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

「これからの都市開発・再開発についての研究会：大都市部会」委員（全国市街地再開発協会、株式会社日本建築住宅センター）

Journal:” Planning Theory and Practice (Royal Town Planning Institute),”

Editorial Board(Taylor & Francis)

氏 名	有馬 澄佳	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	生産システム工学、地域活性化、技術経営とビジネスモデル・イノベーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 生産・品質管理，マネジメント実習，経営の科学 III，問題発見と解決

大学院： 生産・品質管理，ビジネス戦略:理論と実践

◆ 指導学生数：27 名

社会工学専攻 21 名（うち研究生 1 名）

社会工学類 6 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

■ 科学研究費

- 挑戦(萌芽)「地域協働情報プラットフォームの構築と評価、資源余剰の最適割付けと社会合理的分配」(代表：有馬澄佳、分担：繁野麻衣子教授)，期間：2018 年 7 月～2021 年 3 月（2.5 年），金額：637 万円.

■ 受託研究

- NEDO SIP 第 2 期 認知的インタラクション，「ワークライフバランスに貢献するサイバーフィジカル製造業」(代表：相山康道，分担者：有馬澄佳（筑波大学），参画組織：茨城県産業技術イノベーションセンター，茨城県内企業 2 社），期間：H30 年 1 月 14 日～R2 年 2 月 28 日（前期 1 年 3 カ月），金額：79,776,432 円※(筑波大学：40,977,000 円，分担：11,042,000 円)．

※内閣府から 2019 年度予算の大幅減額の連絡あり、変更の可能性大きい．

- JST 研究成果展開プログラム A-STEP（機能検証タイプ）「遠隔保守情報を統合活用した高速印刷機械の異常予測と保全計画最適化」，(研究代表者：有馬澄佳、企業：太洋電機産業(株))，期間：2018 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 30 日（1 年），金額：300 万円(直接費＋間接費)．

■ 産学共同研究等

- 有馬澄佳，「リアルタイム監視・制御のための高速解析システムの研究」，(株)デュラシステムズ，H30 年度～H32 年度(2.5 年)，300 万円．

- 有馬澄佳, 「生産管理システムと超受注生産の研究」, H30 年度, 100 万円/年, 太洋電機産業 (株) .
- 繁野麻衣子 (代表)・有馬澄佳 (分担)「大規模データの解析による事業戦略立案の方法」, H30.6 月～H31.3 月, 直接費 250 万円 (分担 : 125 万円) , (株)Lixil.
- 繁野麻衣子 (代表)・有馬澄佳 (分担)「中小企業における Big Data 解析の方法論の研究」, H30 年度, 直接費 250 万円 (分担 : 125 万円) , (株)松田電機工業所.

■ その他 (学内) :

- ダイバーシティ推進「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」(H30 年, 17 万円)

◆ 著書・論文等 :

査読付学術雑誌掲載論文 ※主執筆者

1. S. ARIMA, T. NAGATA, H. Bu, S. SHIMADA, "Applications of Sparse Modelling and Principle Component Analysis for the Virtual metrology of comprehensive multi-dimensional quality," Proceedings of International Conference on Operations Research and Enterprise Systems (ICORES) 2019, INSTICC, pp.1-8 (RP-41), Feb 2019.
2. S. Arima, M. Tanaka, "Real-time Allocation of Multi-Type Production Resource with Due Date grouping for MTO Manufacturing -Semiconductor Wafer Test Process," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2018 (ISSM2018), IEEE, pp.1-4/MC-052, Dec 2018.
3. S. Arima, H. Motomiya, "Simultaneous Resource Allocation of Multi Resource Constrained Production," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2018 (ISSM2018), IEEE, pp.1-4/MC-059, Dec 2018.
4. H. Bu , H. Motomiya, S. Aarima, "Dynamic Capacity Allocation and Scheduling for Multi-type Resource Sharing Systems," Proceedings of the 13th International Symposium on Operations Research and Its Applications (ISORA2018) , Asian Pacific Operational Research Societies, pp.1-12/S42, Aug. 2018.
5. Y. Akiyama, Y. Zhang, H. Sato, S. Arima, "Forecasting Call Center Arrivals using a Hybrid Model composed by Multiple Regression and LSTM," Proceedings of the 13th International Symposium on Operations Research and Its Applications (ISORA2018) , Asian Pacific Operational Research Societies, pp.1-6/S24, Aug. 2018.
6. T. Tusuji, Y. Kotsuka, S. Arima, "Work Study System Using Indoor Positioning Technology," Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, IEEE, pp.1-6, July 2018.

7. M. Tanaka, T. Nagata, Y. Nishi, S. Arima, "Common Sensing and Analyses to Visualize a Production Process with Parallel Utilized Resource - Job-shop and Flow-shop cases," Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, IEEE, pp.1-6, July 2018.
8. K. Shinoda, K. Onodera, S. Arima, "Development and Evaluation of a Hybrid-flow Scheduling System for Make-to-Order Production," Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, IEEE, pp.1-6, July 2018.

◆ 学会発表等： ※発表者

1. S. ARIMA, T. NAGATA, H. Bu, S. SHIMADA, "Applications of Sparse Modelling and Principle Component Analysis for the Virtual metrology of comprehensive multi-dimensional quality," International Conference on Operations Research and Enterprise Systems (ICORES) 2019, INSTICC, pp.1-8 (RP-41), 2019 (Feb.19-21, in PRAGUE, Czech Republic).
2. S. Arima, M. Tanaka, "Real-time Allocation of Multi-Type Production Resource with Due Date grouping for MTO Manufacturing -Semiconductor Wafer Test Process," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2018 (ISSM2018), IEEE, pp.1-4/MC-052, 2018-Dec.10-11th, (Location: Tokyo, Japan).
3. S. Arima, H. Motomiya, "Simultaneous Resource Allocation of Multi Resource Constrained Production," Proceedings of The International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2018 (ISSM2018), IEEE, pp.1-4/MC-059, 2018-Dec.10-11th, (Location: Tokyo, Japan).
4. H. Bu, H. Motomiya, S. Arima, "Dynamic Capacity Allocation and Scheduling for Multi-type Resource Sharing Systems," Proceedings of the 13th International Symposium on Operations Research and Its Applications (ISORA2018), Asian Pacific Operational Research Societies, pp.1-12/S42, Aug. 2018 (Location: Guizhou, China).
5. Y. Akiyama, Y. Zhang, H. Sato, S. Arima, "Forecasting Call Center Arrivals using a Hybrid Model composed by Multiple Regression and LSTM," Proceedings of the 13th International Symposium on Operations Research and Its Applications (ISORA2018), Asian Pacific Operational Research Societies, pp.1-6/S24, Aug. 2018 (Location: Guizhou, China).
6. T. Tusuji, Y. Kotsuka, S. Arima, "Work Study System Using Indoor Positioning Technology," Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, IEEE, pp.1-6, July 2018 (Location: Yonago, Japan).
7. M. Tanaka, T. Nagata, Y. Nishi, S. Arima, "Common Sensing and Analyses to Visualize a Production Process with Parallel Utilized Resource - Job-shop and Flow-shop cases," Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, IEEE, pp.1-6, July 2018 (Location: Yonago, Japan).
8. K. Shinoda, K. Onodera, S. Arima, "Development and Evaluation of a Hybrid-flow

Scheduling System for Make-to-Order Production," Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, IEEE, pp.1-6, July 2018 (Location: Yonago, Japan).

◆ その他：研究会オーガナイザー（産学官交流）

2018 年度「つくば産学官交流フォーラム」

i. (Mar. 18th(Mon), 2019)

2018 年度第 3 回つくば産学官交流イノベーションフォーラム

オープンセミナー『知的情報処理の最前線を学ぼう！』

基調講演「スパースモデリングとその発展」（AIST・赤穂昭太郎先生）ほか

ii. (Oct. 22th(Mon), 2018)

2018 年度第 2 回つくば産学官交流イノベーションフォーラム

『AI に基づく協働サイバーリアルシステム～IoT と AI ロボットを学ぼう、語ろう、創ろう！』

iii. (Sep 28th, 2018)

2018 年度第 1 回つくば産学官交流イノベーションフォーラム

『産学共同 AI 研究 ―ビッグデータ解析と数値最適化技術の融合へ』

（主催：筑波大学 社会工学専攻（研究会として実施））

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

シス情倫理委員会（H30 年度～）

スポーツデイ実行委員会（H30 年度～）

留学生対応委員会（H30 年度～）

学類新入生オリエンテーション委員（H30 年度 9 月～）

4. 学外の社会貢献

◆ 茨城県「中小企業 IoT 等自動化技術導入促進事業」専門家（H28 年度～）

◆ 茨城県「IoT 推進ラボ」メンバー（上記と合わせて）（H28 年度～）

◆ IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2018 プログラム委員

◆ AEC/APC symposium Asia プログラム委員会 副委員長

◆ 論文査読

➤ ジャーナル

◇ IEEE: 1 件

◇ International Journal of Production Research 1 件

➤ 国際会議論文: IEEE ISSM2018 64 件

氏 名	安東弘泰	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学実習／社会工学専門英語／シミュレーション／微積分1

大学院：社会工学のための数学

◆ 指導学生数：

社会工学類 6名 社会工学専攻：5名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【受託研究】 SIP 次世代パワーエレクトロニクス「SiC パワーデバイス応用による低容量小型パワー集積回路開発およびパワープロセッシング技術の研究開発」（代表機関：京都大学）（再委託）

【受託研究】 深層学習による音声変換に関する研究，[代表] NTT 共同研究

◆ 著書・論文等：

<査読付き国際会議論文>

1. H. Ando, R. Takahashi S.-I. Azuma M. Hasegawa, T. Yokoyama, and T. Hikihara, A resource sharing model in a power packet distribution network, *Proceedings of the 2018 International Power Electronics Conference (IPEC2018)*, pp. 3665—3669, Niigata, Japan, May 22—24, 2018
2. S. Baek, H. Ando, T. Hikihara, Automata Modeling on Power Packet Distribution Network for Power Flow Analysis, *Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2018 (NOLTA2018)*, pp.465-467, Tarragona, Spain, September 2-6, 2018
3. M. U. Kobayashi, H. Ando, Control of deterministic diffusion in chaotic systems with time-delayed feedback control, *Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2018 (NOLTA2018)*, p.122, Tarragona, Spain, September 2-6, 2018
4. H. Ando, T. Hikihara, A bio-inspired power sharing model in consensus networks, *Proc. of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 2018 (NOLTA2018)*, pp.84-85, Tarragona, Spain, September 2-6, 2018

5. K. Oyamada, H. Kameoka, T. Kaneko, K. Tanaka, N. Hojo, and H.Ando. Generative Adversarial Network-Based Approach to Signal Reconstruction from Magnitude Spectrogram, *Proc. of 26th European Signal Processing Conference(EUSIPCO)*, pp. 2528—2532, Rome, Italy, September 3-7, 2018
6. S. Baek, H. Ando, T. Hikihara, Consensus-Based Distributed Control of Power Packet Distribution Network, *7th Japan Korea Joint Workshop on Complex Communication Sciences 2018*, 4pages, Pyengonchang, Korea, January 6-9, 2019
 <査読付き国際会議アブストラクト>
7. H. Ando, K. Takehara, M. U. Kobayashi, Time-delayed feedback control of diffusion in random walkers-Phenomena, 675. WE-Heraeus Seminar: Delayed Complex Systems 2018, Physikzentrum Bad Honnef, Germany 2- 5 July 2018,
8. Y. Goshima, H. Ando, I. Takahara, Prediction of Fuel and Electric Power Consumption of Hybrid Automobile by Using Measured Data in Toyota City, 2019 International Workshop on Cyber-Physical and Cyber Resilience, Delaware, U.S.A. 20 March, 2019.

◆ 学会発表等：

1. 白 成哲, 安東 弘泰, 引原 隆士, 電力パケット伝送ネットワークにおけるコンセンサスを有する電力ルータの分散的動作に関する検討, 第62回システム制御情報学会研究発表講演会, システム制御情報学会, 212-5, 京都, 2018年5月16～18日.
2. S. Baek, H. Ando, T. Hikihara, A Study on Distributed Control of Power Packet Distribution Network based on Consensus Model, 複雑コミュニケーションサイエンス研究会, 電子情報通信学会 技術研究報告 vol. 118, no. 76, CCS2018-1, pp. 1-5, 京都, 2018年6月.
3. 安東 弘泰, 小林 幹, 竹原 浩太, 時間遅れフィードバック制御の確率システムへの応用, 第61回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, 名古屋, 2018年11月17～18日.
4. 岡本 大河, 安東 弘泰, 複数内部状態をもつモバイル振動子ネットワークの同期, 第61回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, 名古屋, 2018年11月17～18日.
5. 會田拓海・安東弘泰, 自律分散システムにおける余剰電力取引に関する基礎的検討, 複雑コミュニケーションサイエンス研究会, 電子情報通信学会 技術研究報告 vol. 118, no. 519, CCS2018-53, pp. 37-42, 東京 2019年3月.
6. 川勾啓雅・小山田圭佑・安東弘泰, 生体模倣ネットワークモデルにおけるエネルギー伝搬のシミュレーション複雑コミュニケーションサイエンス研究会, 電子情報通信学会 技術研究報告 vol. 118, no. 519, CCS2018-53, pp. 49-54, 東京 2019年3月.

7. 岡本大河, 安東弘泰, モバイル振動子ネットワークの同期におけるカオス的移動の効果
日本物理学会 2019年年次大会, 福岡, 2019年3月14～17日.

その他 :

【招待講演】

1. 安東弘泰, 電力パケットネットワークモデルにおけるパワーの相互融通, 通信学会総合大会, AT-2. エネルギーの通信 (高信頼制御通信研専) チュートリアル講演, 東京, 2019 年 3 月 22 日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
システム情報系情報環境委員、社会工学専攻サブネットワーク委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
コンピュータ委員長 (社会工学類、社会工学専攻)
マッチング委員 (社会工学類)

4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携
米軍子弟への研究室紹介

氏 名	阿武 秀和	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学，社会工学実習，経済学入門Ⅰ(以上、学類)、ゲーム理論(大学院)
- ◆ 指導学生数：0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究「複数財割当問題の理論的研究」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
Dual Organ Markets: Coexistence of Living and Deceased Donors, Discussion Paper Series, University of Tsukuba

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：数学プレイスメント委員、施設委員、施設安全衛生管理・省エネルギー委員、研究室配属マッチング委員、1年2クラス担任、社会工学研究科入試（8/23,8/24, 2019/2/1）、センター試験監督員(2019/1/19, 20)

4. 学外の社会貢献

- ◆ レフリー活動：International Economic Review
- ◆ 研究補助金の審査員：Social Sciences and Humanities Research Council of Canada
- ◆ 茨城県高校生科学研究発表会審査員・講評担当

氏 名	五十嵐 岳	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 計量経済学／計量分析システム演習／統計 II
 - 大学院：
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類： 0 人
 - 社会工学専攻： 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究(B)「裾・境界バイアス問題のないノンパラメトリック直接型密度比推定量とその応用について」（代表）.
- ◆ 著書・論文等：
 - ・ Igarashi, Gaku and Kakizawa, Yoshihide "Limiting bias-reduced Amoroso kernel density estimators for non-negative data", *Communications in Statistics - Theory and Methods*, Vol.47, Issue 20, pp.4905-4937, October 2018.
 - ・ Igarashi, Gaku "Multivariate density estimation using a multivariate weighted log-normal kernel", *Sankhya A*, Vol.80, Issue 2, pp.247-266, August 2018.
 - ・ Igarashi, Gaku and Kakizawa, Yoshihide "Generalised gamma kernel density estimation for nonnegative data and its bias reduction", *Journal of Nonparametric Statistics*, Vol.30, Issue 3, pp.598-639, July 2018.
- ◆ 学会発表等：
 - 2018 年度統計関連学会連合大会，中央大学，2018 年 9 月.
 - 日本数学会 2019 年度年会，東京工業大学，2019 年 3 月.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 2 年クラス担任，社会工学類入試実施委員会.

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏 名	生稲史彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	サービス工学学位プログラム 専任（主担当） 社会工学学位プログラム 専任（副担当）		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	経営学、技術経営(MOT)、イノベーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経営学、マネジメント実習
 - 大学院 技術経営、ビジネス戦略—理論と実践
- ◆ 指導学生数：
 - 学類 6 名
 - 大学院 4 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 平成 29 年度文化庁メディア芸術連携促進事業連携共同事業「ゲーム産業生成におけるイノベーションの分野横断的なオーラル・ヒストリー事業」（研究代表者 清水洋）
 - 平成 30 年度公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団/助成研究 A「新産業生成としてのゲームビジネスのオーラル・ヒストリー」（研究分担者）
 - 平成 30 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「ICT 化に伴う産業概念の再検討」（課題番号：18K01788）
- ◆ 著書・論文等：
 - Positive effect of cost pressure: The Formation of New Routines and Business at Fujitsu. *Annals of Business Administrative Science*, 17, 183-191. doi: /10.7880/abas.0180712b
 - Industrial Competitiveness and Design Evolution*, Springer, 2018 年 10 月 (Co- editing with Fujimoto, Takahiro)
 - Creating New Demand: The Competition, Formation of Submarkets, and Platforms. In: Fujimoto T., Ikuine F. (eds.) *Industrial Competitiveness and Design Evolution*. Evolutionary Economics and Social Complexity Science, vol 12. Springer, Tokyo, 2018.
 - Decline in Demand Creation: The Development Productivity Dilemma and Its Consequences. In: Fujimoto T., Ikuine F. (eds.) *Industrial Competitiveness and Design Evolution*. Evolutionary Economics and Social Complexity Science, vol 12. Springer,

Tokyo, 2018.

Conclusion. In: Fujimoto T., Ikuine F. (eds.) *Industrial Competitiveness and Design Evolution*. Evolutionary Economics and Social Complexity Science, vol 12. Springer, Tokyo, 2018. (with Fujimoto, Takahiro)

◆ 学会発表等：

「組織ルーチンの横展開」組織学会研究発表大会，2018 年 6 月 10 日．報告要旨 pp.382-387. 東京大学. (山城慶晃、稲水伸行、佐藤秀典と共同発表)

Melting pot of knowledge: The formation of new routines and business at Fujitsu. ABAS Conference 2018 Summer: Part 1 5th July 2018, Manufacturing Management Research Center 5F Economics Research Annex (Kojima Hall) Faculty of Economics, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

「現場管理におけるデジタル・データの活用—富士通のフィールド・イノベーション事業の事例分析」一橋大学イノベーション研究センター『IIR サマースクール 2018』, 2018 年 8 月 26 日.

◆ その他：

「経営と時間を考える」『赤門マネジメントレビュー』17 巻 2 号, pp.21-23, 2018 年 4 月. doi: 10.14955/amr.0180410a

「特集「新しい関係性がもたらす知識共有のインパクト」に寄せて」『組織科学』51 巻 4 号, pp.2-3, 2018 年 6 月. (安本雅典と共著)

「編集後記」『組織科学』51 巻 4 号, pp.112-112, 2018 年 6 月. (安本雅典と共著)

「特集にあたって」『一橋 ビジネス レビュー』一橋大学イノベーション研究センター, 66 巻, 3 号, pp.4-5, 2018 年 12 月. (稲水伸行と共著)

「現場からみた日本の営業」『一橋 ビジネス レビュー』一橋大学イノベーション研究センター, 66 巻, 3 号, pp.6-19, 2018 年 12 月. (野部剛、小松弘明と共著)

「サイボウズ株式会社に見る多様な働き方の実現プロセスの事例」東京大学 MMRC Discussion Paper No. 507, 2019 年 1 月. (里政幸、稲水伸行と共著)

「石井ぜんじ第 2 回インタビュー前半：アーケードゲーム専門誌『ゲーメスト』の独創的な誌面作りとアーケードゲーム論」(WP#19-03). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019 年 1 月. (鳴原盛之と共著)

石井ぜんじ第 2 回インタビュー後半：アーケードゲーム専門誌『ゲーメスト』の独創的な誌面作りとアーケードゲーム論」(WP#19-04). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019 年 1 月. (鳴原盛之と共著)

「岩谷徹第 2 回インタビュー前半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」(WP#19-05). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019 年 2 月. (清水洋、江藤学、鳴原盛之と共著)

「岩谷徹第2回インタビュー後半：ナムコビデオゲーム黎明期の開発体制」(WP#19-06).
一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (清水洋、江藤学、嶋原盛之と共著)

「岩谷徹第3回インタビュー前半：『キューティQ』『パックマン』におけるゲーム開発・企画の手法」(WP#19-07). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (福田一史、嶋原盛之と共著)

「岩谷徹第3回インタビュー後半：『キューティQ』『パックマン』におけるゲーム開発・企画の手法」(WP#19-08). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (福田一史、嶋原盛之と共著)

「岩谷徹第4回インタビュー前半：ナムコビデオゲーム開発の歴史と発想法」(WP#19-09).
一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (中村彰憲、福田一史、井上明人、嶋原盛之と共著)

「岩谷徹第4回インタビュー後半：ナムコビデオゲーム開発の歴史と発想法」(WP#19-10).
一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (中村彰憲、福田一史、井上明人、嶋原盛之と共著)

「斉藤利治第1回インタビュー前半：デジタル通信技術とゲーム開発の歴史の証言」
(WP#19-21). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (江藤学、福田一史、嶋原盛之、松井彩子と共著)

「斉藤利治第1回インタビュー後半：デジタル通信技術とゲーム開発の歴史の証言」
(WP#19-22). 一橋大学イノベーション研究センター. 2019年2月. (江藤学、福田一史、嶋原盛之、松井彩子と共著)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 4年生クラス担任
 - 社会工学類 梗概集委員
 - 社会工学類 就職委員
 - 社会システム情報研究科 就職委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - 公益財団法人大学基準協会 デジタルコンテンツ系専門職大学院認証評価委員会 評価委員・分科会委員 (2017年7月1日～)
 - 特定非営利活動法人組織学会 広報委員 (2017年9月～)

東京大学 政策ビジョン研究センター「文化を基軸とした融合型新産業創出研究ユニット」
研究会メンバー (2017 年度～)

東京大学大学院経済学研究科 非常勤講師 (ICT マネジメント II)
県立広島大学 大学院経営管理研究科 非常勤講師 (イノベーション戦略)

氏 名	糸井川 栄一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	なし
研究分野	都市災害リスク管理、地区安全計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分Ⅱ／都市計画実習／都市防災計画

大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習／リスク工学概論

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／リスク工学専攻前期課程 8人／リスク工学専攻後期課程 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・市街地火災時の安全な避難を目指した住民の初期消火活動効果とその限界に関する研究
- ・地震火災時の不完全な覚知火災情報に基づくリアルタイム避難誘導支援に関する研究

◆ 著書・論文等：

- (1)高橋拓，糸井川栄一，東京都特別区消防団を対象とした時間帯別の震災対応力に関する研究－地震火災時の消火対応の観点から－，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.33，2018.11，pp.93-103
 - (2)鈴木雄太，糸井川栄一，地震火災における延焼予測のばらつきに対して安全な避難経路の最適化－不完全情報下におけるリアルタイム避難誘導のための提案－，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.33，2018.11，pp.175-185
 - (3)田中皓介，梅本通孝，糸井川栄一，河川氾濫水害に際した住民の避難意思決定要因の構造分析，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.33，2018.11，pp.187-197
- ◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績
- (1)鈴木 雄太，糸井川 栄一，地震火災時のリアルタイム避難誘導における危険性に関する考察－覚知火災情報の不完全性に着目して－，地域安全学会梗概集，No.42，2018.5，pp.179-182
 - (2)糸井川栄一，廣井悠，地震火災時広域避難におけるリスク情報の伝達過程に関する論点と課題，2018 年度日本建築学会大会(東北)防火部門パネルディスカッション 糸魚川大規模火災とこれからの都市防火を考える，日本建築学会，2018.9，pp.11-18

- (3)鈴木 雄太, 糸井川 栄一, 地震火災時のリアルタイム避難誘導における住民の安全確保に必要な火災覚知率に関する基礎的研究－未覚知火災を考慮した避難可能確率に着目して－, 地域安全学会梗概集, No.43, 2018.11, pp.99-102
- (4)渡辺春菜, 糸井川 栄一, 防災集団移転促進事業による集落コミュニティへの影響と存続に関する研究－新潟県小千谷市を対象として－, 地域安全学会梗概集, No.43, 2018.11, pp.195-198
- (5)樋本圭佑, 岩見達也, 糸井川栄一, 建築物の延焼抵抗性能評価における内部火災拡大過程のモデル化, 日本建築学会学術講演梗概集 (防火), pp.3-4, 2018
- (6) 糸井川栄一, 野貴康, 犯罪多発地点の予測に基づく防犯パトロール経路に関する提案, 第 15 回日本地震工学シンポジウム, 2018.12.7, 仙台国際センター.

◆ その他： ※受賞、特許等などの実績
なし

3. 学内運営

- ◆ 系や全学組織等の業務への貢献：

本部全学リスク管理室員／システム情報系コンプライアンス推進委員会委員／システム情報系施設・安全衛生管理委員会委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員／GP アクション委員会委員／大塚キャンパス対策委員会委員長／教育企画委員会委員長／施設委員会委員長／カリキュラム委員会委員／将来戦略 WG コアメンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）、学外から委嘱された委員、兼業など.
 - (1)地域安全学会 理事／学術委員会委員／査読
 - (2)日本建築学会 広域避難小委員会委員／査読
 - (3)日本都市計画学会 査読
 - (4)国土交通省 「建築防火基準委員会」 委員(2011～)／「今後の密集市街地の整備改善・評価基準に関する検討会」 委員長（2017～）
 - (5)独立行政法人建築研究所 客員研究員（2008～）
 - (6)東京消防庁 「第 23 期火災予防審議会」 委員・地震防災部会長
 - (7)茨城県 「茨城県減災対策検討会議」 委員
 - (8)神栖市 「神栖市総合計画審議会」 委員長（2017～）
 - (9)鹿嶋市 「鹿嶋市学校防災教育推進委員会」 委員長(2012～)
 - (10)(一社)地域安全学会 「文部科学省平成 28 年度リスクコミュニケーションのモデル形成事業に係る特別委員会」 委員長（2016～）

- (11) (一社)日本都市計画コンサルタント協会 「認定都市プランナー口頭審査試験官」
- (12) (公社) ロングライフビル推進協会 「市街地火災対策における防火規定の合理化のためのWG」 主査／「市街地火災WG」委員／「主要構造部・避難WG」委員
- (13)(株)パスコ 「地震時の火災避難における地域リスク評価手法に関する検討委員会」委員 (2017～)
- (14)応用地質(株) 「東京消防庁受託業務『飛び火火災評価手法に関する調査研究委託』委員会」主査 (2017～)
- (15)(株)イオタ 東京都受託事業「東京防災学習セミナー」講座「木密地域の防災対策」講師 (2017～)
- (16)東京消防庁 企画提案審査会 (延焼シミュレーションモデル開発) 審査委員

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計科学, データマイニング, ソフトコンピューティング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学/統計 I/社工専門英語（分担） / 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学基礎（分担）/リスク工学グループ演習（分担）/社会システム工学特別演習 I（分担）/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/特定課題研究(分担)

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人/リスク工学専攻博士前期課程 4人/リスク工学専攻博士後期課程 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

◆ 著書・論文等：

- (1) M. Sato-Ilic, Homogeneous Cluster Analysis, Procedia Computer Sciences, Elsevier, Vol. 140, pp. 269-275, 2018 (2nd Runner-Up Theoretical Paper Award 受賞)
- (2) M. Sato-Ilic, Cluster-Scaled Regression Analysis for High-Dimension and Low-Sample Size Data, Advances in Smart Systems Research, Vol. 7. No. 1, pp.1-10, 2018
- (3) Y. Toko, K. Wada, S. Iijima, M. Sato-Ilic, Supervised Multiclass Classifier for Autocoding Based on Partition Coefficient, I. Czarnowski, R. J. Howlett, L. C. Jain, L. Vlacic (eds), Intelligent Decision Technologies 2018, Springer, Vol. 97, pp. 54-64, 2018 (Best Research Paper Award 受賞)
- (4) M. Takahashi, M. Sato-Ilic, M. Okamoto, Estimation of Business Demography Statistics: A Method for Analyzing Job Creation and Destruction, I. Czarnowski, R. J. Howlett, L. C. Jain, L. Vlacic (eds), Intelligent Decision Technologies 2018, Springer, Vol. 97, pp. 33-43, 2018

- (5) Y. Toko, S. Iijima, M. Sato-Ilic, Overlapping Classification for Autocoding System, Romanian Statistical Review, Vol. 4, pp.58-73, 2018

◆ 学会発表等：

基調講演：

M. Sato-Ilic, Cluster-Scaled Intelligent Data Analysis, 3rd International Conference on Smart Computing & Informatics, December 21, 2018, Bhubaneswar, India (Award of Appreciation 受賞)

招待研究発表：

M.Sato-Ilic, Soft Clustering-based Models, 23rd International Conference on Computational Statistics (COMPSTAT 2018), p. 33, 2018

一般研究発表：

- (1) 伊藤佳輝, 元田卓, 佐藤美佳, 高次元小標本データに対する T-ノルムに基づくマルチレイヤークラスタリング, 第 34 回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, pp. 480-485, 2018
- (2) 小林大悟, 佐藤美佳, 分類構造に基づく異常検知手法, 2018 年度統計関連学会連合大会講演報告集, p. 379, 2018.
- (3) 高橋雅夫, 浅川智雄, 佐藤 (イリチュ) 美佳, 経済センサスー基礎調査における調査ブロック形成方法の提案：空間代表点情報を利用した制約付クラスター分析の新たなアルゴリズムの開発, 地理情報システム学会 第 27 回学術研究発表大会 講演論文集, 2018
- (4) 床裕佳子, 佐藤美佳, 自動格付のための多クラス分類器, 科研費基盤研究 (A) 「政府統計マイクロデータの構造化と研究利用プラットフォームの形成」に係る研究集会, 2018

◆ その他 (受賞)：

- (1) 2nd Runner-Up Theoretical Paper Award 受賞, M. Sato-Ilic, Homogeneous Cluster Analysis, Complex Adaptive Systems 2018, November 6, 2018, Chicago (USA)
- (2) Best Research Paper Award 受賞, Y. Toko, K. Wada, S. Iijima, M. Sato-Ilic, Supervised Multiclass Classifier for Autocoding Based on Partition Coefficient, KES-IDT2018, June 22, 2018, Gold Coast (Australia)
- (3) Award of Appreciation 受賞, M. Sato-Ilic, Cluster-Scaled Intelligent Data Analysis (Keynote Speech), 3rd International Conference on Smart Computing & Informatics, December 21, 2018, Bhubaneswar (India)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ 早期修了プログラム実施委員会委員
- ・ 研究科内部進学制度入学試験書面審査員
- ・ ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員

- ・全学入試実施委員
- ・全学学園祭委員
- ◆ 専攻・学群・学類組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・リスク工学専攻教育企画委員会委員長
 - ・リスク工学専攻学務・カリキュラム・達成度評価実施委員会委員
 - ・ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員
 - ・社会工学類入試実施委員会副委員長
 - ・社会工学類学生担当教員

4. 学外の社会貢献

- ・独立行政法人 統計センター 理事（研究担当）
- ・公認会計士試験出題委員（金融庁）

海外業務：

- ・ Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・ Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・ Publicity & Public Relations Chair, IEEE WCCI2018
- ・ Competition Chair, FUZZ-IEEE2019
- ・ Associate Editor of the IEEE Transaction on Fuzzy Systems (TFS), USA
- ・ Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・ Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・ Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- ・ IEEE Senior Member
- ・ Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- ・ Board Member of International Society of Management Engineers

その他：

- ・ 日本知能情報ファジィ学会評議員
- ・ 日本分類学会運営委員・幹事（渉外担当）

氏 名	上市 秀雄	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2名
 - 社会工学専攻博士前期課程 4名
 - 研究生 3名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、ストレス対処、消費者心理など
科研費補助金
 - 挑戦的萌芽（研究代表者）
 - リアルタイム場面におけるサービス・インタラクション理論の構築と実証
基盤研究（B）（研究分担者）
 - 過剰接客サービス存在時の IT 活用—小売業での RFID 動線を対象として—
基盤研究（C）（研究分担者）
 - 慢性ストレスが生体リズムに影響を与えるまでのタイムラグの検討
- ◆ 著書・論文等：
 1. 上市秀雄(印刷中).
 - 「消費者の購買意思決定過程（第3章）」
 - 産業・組織心理学編「第5巻豊かな消費生活—消費者行動部門（仮）」. 北大路書房.
 2. 上市秀雄(印刷中).
 - 「意思決定における後悔のもつ適応的機能」
 - 応用心理学会編「応用心理学ハンドブック」福村出版.
- ◆ 学会発表等：
 1. 上市秀雄・呉麗敏（2018）.
 - 中国人留学生の留学意識が進路決定に及ぼす影響について

：日本の私費中国人留学生に対する調査に基づく検討
日本心理学会第 82 回大会発表論文集, 1AM-088.

3. 学内運営

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
- ◆ 学術論文・国際会議査読
応用心理学研究

氏 名	牛島 光一	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用計量経済学（開発、教育、健康）		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：統計Ⅱ、都市経済学、地域科学演習
 - 大学院：公共政策論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類：3 人
 - 社会工学専攻：（実質指導）博士 2 名、修士 3 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費 若手研究 (B)「公共政策が子供への健康投資行動に与える影響に関する実証研究」（代表）
 2. 科学研究費 基盤研究 (B)「子どもの人的資本の蓄積メカニズムに関する実証研究－足立区の挑戦から学ぶこと－」（分担者）
- ◆ 著書・論文等：
 - 〔査読有り論文〕
 1. The Impact of a Universal Health Scheme on Precautionary Savings: Evidence from Thailand. *Economic Development and Cultural Change*, forthcoming. DOI: 10.1086/703236
 - 〔論説〕
 2. 牛島光一：オリンピック・パラリンピックにはどんな経済効果があるのか、『経済セミナー 2019 年 4・5 月号』
- ◆ 学会発表等：
 1. “The Impact of High Speed Railway on Residential Land Price,” 住宅経済研究会，於 東京国際フォーラム，2018 年 12 月 12 日.
 2. “Equalization in Class(room),” 2018 年度日本経済学会秋季大会，於 学習院大学，2018 年 9 月 8 日.

◆ その他：

〔受賞〕

1. 2018 年度都市住宅学会 学会賞・論説賞

〔サークル顧問〕

- FreeEducation（教育ボランティアサークル）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- 教職実践演習担当

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 数学プレースメントテスト委員
- 入試実施委員
- 就職委委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 守谷市行政改革推進委員
- 足立区との研究協力協定・職員派遣協定に基づく行政評価プロジェクト
- 筑西市との研究協力協定・職員派遣協定に基づく行政評価プロジェクト

氏 名	梅本 通孝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 地域科学演習/都市計画事例講義および実習
 - 大学院： リスク工学基礎/都市リスク分析演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0人/リスク工学専攻(前期) 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 災害対応体制に関するニュージーランドとわが国との比較研究
 - カードゲームを用いたワークショップによる家庭の防災対策促進に関する研究
 - 都市部低平地における水害対策の日中間比較
- ◆ 著書・論文等：
 - 田中皓介, 梅本通孝, 糸井川栄一：河川氾濫水害に際した住民の避難意思決定要因の構造分析, 地域安全学会論文集, No.33, pp.187-197, 2018.11
- ◆ 学会発表等：
 - UMEMOTO, Michitaka, Outline of the Disaster Management System in New Zealand, *International Workshop on Natural Disaster Reduction and Management among Korea-Taiwan-Japan*, Nagaoka, Japan, 19 May 2018.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報工学研究科 入試実施委員会 委員
 - システム情報工学研究科 FD委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻 入試実施委員会 委員
 - リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 委員

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 コアメンバー

リスク工学専攻 将来戦略構想検討 WG メンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

地域安全学会 理事

日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員

Journal of Disaster Research 誌 査読者

地域安全学会論文集 査読者

Urban and Regional Planning Review 誌 査読者

日本計画行政学会誌 査読者

日本自然災害学会誌 査読者

日本地震工学会論文集 査読者

◆ 学外から委嘱された委員

鳥取県原子力安全顧問

茨城県風水害対策検討懇話会 副会長

茨城県江戸崎地方衛生土木組合ごみ処理施設事業者選定委員会 委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

◆ 講演等

梅本通孝：自然災害から命を守る避難行動，平成 30 年度横浜市青葉区防災講演会，
2019.1.27.

氏 名	大久保 正勝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習
大学院 資産価格理論
- ◆ 指導学生数：
社会工学専攻 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金 基盤研究（C）「モデル不確実性と経済厚生の国際比較分析」
（研究代表者）
筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ビッグデータ時代における実証分析の理論と応用」（サポートメンバー）
- ◆ 著書・論文等：
Okubo, Masakatsu (2018), “On the Computation of Detection Error Probabilities under Normality Assumptions”, *Economics Letters*, Vol. 171, pp.106-109.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学教員免許状更新講習 講師
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類カリキュラム委員
大学院カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
なし

氏 名	大澤 義明	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画，地域科学，社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市解析／都市計画マスタープラン策定実習／都市計画事例講義および実習／つくばの景観を考える／都市・地域・環境を探る I, II, III

大学院：都市地域解析学／サービス工学特別講義Ⅳ／エンパワーメント情報学特別研究

◆ 指導学生数：社会工学類 6 人／社会工学専攻（前期）13 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人／社会工学専攻（後期）1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1]戦略的イノベーション創造プログラム・道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究，科学技術振興機構．研究開発責任者．

[2]高・大・官連携による常総市まちづくり提案．共同研究（常総市）．研究代表者．

[3]ライドシェア等、次世代における地域交通インフラに関する調査研究．共同研究（天塩町）．研究代表者．

[4]次世代社会システムとモビリティの新価値研究．共同研究（トヨタ自動車）．研究代表者．

◆ 著書・論文等：

[1]小又 暉広，小林 隆史，高原 勇，大澤義明 (2018)：移動距離に着目した右折禁止交通の効率性．都市計画論文集，53(3)，pp. 1435-1441.

[2]長晃，馬東来，高原勇，大澤義明 (2018)：相乗り型ライドシェアにおける乗り換え効果．都市計画論文集，53(3)，pp. 597-602.

[3]四衛深，川口明子，石井儀光，大澤義明 (2018)：扇形シルベスター4点問題とウェーバー問題端点解発生確率．都市計画論文集，53(3)，pp. 646-652.

[4]竹中太基，仲村健，鵜飼孝盛，大澤義明 (2018)：施設距離の空間相関とレーダーチャート面積の不安定性．都市計画論文集，No. 53-3，53(3)，pp. 640-645.

◆ 学会発表等：

- [1] 鐘岱, 田村一軌, 大澤義明 (2018) : ネットワーク上での 2 点間連続距離と離散距離. オペレーションズ・リサーチ学会 2018 年秋季研究発表会, pp. 24-25.
- [2] 欧陽君顔, 城殿征志, 大澤義明 (2018) : 自治体規模・位置とライドシェア実証実験. オペレーションズ・リサーチ学会 2018 年秋季研究発表会, pp. 26-27.
- [3] 大澤義明 (2018) : モビリティ・イノベーションとまちづくり. 第 16 回環境研究シンポジウム, pp. 24-25.
- [4] 大澤義明 (2019) : 復興支援の現在と未来. 全代会広報誌 Campus, 217, p5
- [5] 大澤義明 (2019) : Society 5.0 を筑波学園都市で実現する自動運転による移動革命「CASE 社会」. CROSS T&T, 61, pp. 11-14.
- [6] 鐘岱, 田村一軌, 大澤義明 (2019) : クロフトン微分方程式によるネットワーク内々距離の導入. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会, pp. 40-41.
- [7] 中田浩二, 櫻井一宏, 大澤義明 (2019) : 人生 100 年時代を意識した J リーガー年齢の基礎分析. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会, pp. 58-59.
- [8] 榎本崇宏, 渡司悠人, 小林隆史, 大澤義明 (2019) : 民官連携による行政サービスの可能性—茨城県域を対象として—. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会, pp. 60-61.
- [9] 古矢潤, 小又暉広, 石井儀光, 大澤義明 (2019) : 公用車が保有するエネルギー量の推計. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会, pp. 62-63.
- [10] 堀龍一, 大澤義明 (2019) : 交通インフラ維持管理の自治体負担に関する理論研究—行動圏と行政圏との齟齬に着目して—. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会, pp. 164-165.
- [11] 渡司悠人, 長谷川大輔, 鈴木勉, 大澤義明 (2019) : 電柱密度に関する考察—つくば周辺を対象として—. オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会, pp. 166-167.
- [12] 大澤義明 (2019) : 移動革命と都市再開発. 再開発コーディネーター2019, 198, p25

◆ その他：

講演

- [1] 愛媛大学工学部環境建設工学科都市・計画研究室主催, 坊ちゃんセミナー講演「計量化により都市計画課題解決に取り組む」(2018 年 6 月 22 日, 松山: 愛媛大学).
- [2] 産業競争力懇談会主催, COCN フォーラム 2018 「Society5.0 のデータ連携基盤」(2018 年 7 月 19 日, 東京: 経団連会館).
- [3] 環境研究機関連絡会主催, 第 16 回環境研究シンポジウム, スマート社会と環境「豊かな暮らしと環境への配慮の両立を目指して」, モビリティ・イノベーションとまちづくり(2018 年 11 月 13 日, 東京: 一橋大学一橋講堂).
- [4] 常総市・筑波大学主催, 常総市・筑波大学連携シンポジウム 2019 基調講演「産学官連携による Society5.0 の茨城実装」(2019 年 2 月 11 日, 常総市: 常総市生涯学習センター).

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
システム情報工学研究科長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- [1] 応用地域学会・副会長（応用地域学会）
- [2] 日本都市計画学会・会長アドバイザー（日本都市計画学会）
- [3] 日本オペレーションズ・リサーチ学会・代議員（日本オペレーションズ・リサーチ学会）
- [4] 土木学会・技術推進機構・上席研究員（土木学会）
- [5] 土木学会・アセットマネジメントシステム実証のための実践研究委員会・委員（土木学会）

◆ 自治体等

- [1] 土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議・会長（土浦市）
- [2] 土浦市中心市街地活性化協議会・副委員長（土浦市）
- [3] 土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会・委員長（土浦市）
- [4] つくば市建築審査会・会長（つくば市）
- [5] つくば市明るいまちづくり協議会・会長（つくば市）
- [6] つくば市生活安全協議会・会長（つくば市）
- [7] つくば市未来構想等審議会・会長（つくば市）
- [8] 水戸市都市景観審議会・会長（水戸市）
- [9] 水戸市都市景観専門委員会・委員（水戸市）
- [10] 取手市立地適正化計画策定委員会・委員長（取手市）
- [11] 取手市西口A街区市街地再開発事業協力者選定委員会・委員長（取手市）
- [12] 潮来市振興計画審議会・会長（潮来市）
- [13] 重要文化財旧茨城県立土浦中学校本館運営検討委員会・委員長（土浦第一高等学校）
- [14] 茗溪会・理事（一般社団法人茗溪会）
- [15] 筑波学都資金財団評議委員会・理事（一般社団法人筑波学都資金財団）
- [16] 中川育英会・評議員（公益財団法人中川育英会）

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業

- [1] 水海道第一高等学校，石下紫峰高等学校（2018年7月）
- [2] つくば秀英高等学校（2018年8月）
- [3] 天塩高等学校（2018年8月）
- [4] 天塩高等学校（2019年2月）

氏 名	太田 充	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学，地域科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング実習
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／社会工学専攻 8人／社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
無し
- ◆ 著書・論文等：
無し
- ◆ 学会発表等：
“Potential Game on Measures and its Dynamical Behavior”，第 32 回 ARSC 研究発表大会，2018-12-01-2018-12-02，第 32 回 ARSC 研究発表大会，南山大学
“Tradeoff between time and budget resources: an application to modal choice”，65th North American Meetings of the Regional Science Association International，2018-11-07 - 2018-11-10，San Antonio, TX，アメリカ合衆国
“How Does Agglomeration of Economic Activity Influence to Urban Spatial Configuration?”，65th North American Meetings of the Regional Science Association International，2018-11-07 - 2018-11-10，San Antonio, TX，アメリカ合衆国
- ◆ その他：
無し

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

都市住宅学会理事、都市住宅学会総務企画委員会副委員長

氏 名	岡田 幸彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	会計学、サービス工学、社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：社会工学実習/会計学概論/マネジメント実習/社工英語

大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講 1（スポーツウエルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講 2（スポーツウエルネス学位プログラム）

学外：サービス（無形資産）会計（京都大学経営管理大学院）

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人/サービス工学学位プログラム（修士）16 人/社会工学学位プログラム（修士）1 人/社会工学学位プログラム（博士）3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・2018 年度 NEDO 委託事業「物流サービスの労働環境改善と付加価値向上のためのサービス工学×AI に関する研究開発」（筑波大学拠点代表・岡田幸彦、1,798 万円/年）
- ・2018 年度 AMED 委託事業「自治体における保健指導の施策力に応じた最適な保健指導モデルを提示できる AI の開発研究」（副代表・岡田幸彦、1,198 万円/年）

◆ 著書・論文等：

- ・Murae Y., B. Ho, T. Hara and Y. Okada (2019) "Two Aspects of Customer Participation Behaviors and the Different Effects in Service Delivery: Evidence from Home Delivery Services," *Journal of Marketing Development and Competitiveness*. 査読有
- ・高橋悠太・山本亨輔・岡田幸彦(2019)「空間特異モード角度を用いた比較的軽度な橋梁損傷検知の可能性検討」『構造工学論文集 A』。査読有
- ・鳥海航・生方裕一・久野譜也・岡田幸彦(2018)「研究ノート (letter) 地域健康政策へのベイジアンネットワークの応用」『統計数理』。査読有
- ・山矢和輝・生方裕一・岡田幸彦(2018)「わが国サービス産業における会計情報システムの効果を高める組織能力の研究」『会計プロGRESS』。査読有
- ・森光高大・片岡洋人・岡田幸彦(2018)「超総原価計算制度の発見とその理論的意義」『原価計算研究』。査読有。

・ Yamamoto, K., R. Miyamoto, Y. Takahashi and Y. Okada (2018), Experimental Study about the Applicability of Traffic-induced Vibration for Bridge Monitoring, *Engineering Letters*. 査読有

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
教育イニシアティブ機構会議 構成員
教育企画室 室員
理工学群広報委員会 委員
人工知能科学センター運営委員会 委員
筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類広報委員会 委員長
大学院社会工学専攻広報委員会 委員長
S F T 検討委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・ サービス学会 理事（無報酬）
 - ・ 統計数理研究所 客員准教授（無報酬）
 - ・ インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ 発起人・学会会員（無報酬）
 - ・ 公益財団法人清国奨学会 理事（工学系学生への奨学事業、非常勤、無報酬）
 - ・ 水戸信用金庫 理事（非常勤、報酬有、月 10.8 万円（旅費等込））
 - ・ 文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員（無報酬）
 - ・ 常総市 財務アドバイザー（無報酬）
 - ・ つくば市指定管理者選定委員会 委員（報酬有）

氏 名	岡本 直久	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任(社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム担当)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	交通、観光、社会基盤、プロジェクト評価、港湾・物流		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン実習／情報リテラシー・演習／社会基盤と国土

大学院 社会基盤計画学／観光の科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 3 人

社会工学専攻(博士前期課程・社会工学学位プログラム) 10 人

社会工学専攻(博士後期課程・社会工学学位プログラム) 0 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 委託研究費 戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究（研究分担者）
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム:道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究(科学技術振興機構、研究分担者)

◆ 学会発表等：

- ・ 訪日外国人旅行者の周遊実態に基づく観光行動圏の分析:土木学会・土木計画が研究発表会講演集, Vol. 57, 共著(田中敦士・岡本直久), 2018.06
- ・ 観光流行現象の変遷に関する基礎的考察:土木学会・土木計画が研究発表会講演集, Vol. 57, 共著(田中皓大・岡本直久), 2018.06
- ・ 渡航回数に着目した中国人の旅行意向形成に関する研究:土木学会・土木計画が研究発表会講演集, Vol. 58, 共著(田中皓大・岡本直久・薛揚・夏琪・崔燕), 2018.11
- ・ 茨城県内の市町村における橋梁維持管理の実態に関する研究:土木学会・土木計画が研究発表会講演集, Vol. 58, 共著(武田健太郎・岡本直久), 2018.11

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科・入学試験実施委員会委員
日越大学 公共政策プログラム幹事校幹事
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 専攻入試実施委員会委員，FD 委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・ Eastern Asia Society for Transportation Studies：Secretary General
 - ・ 港湾局関係公共事業評価手法研究委員会：国土交通省港湾局：委員
 - ・ コンプライアンス・アドバイザー委員会：国土交通省関東地方整備局：委員
 - ・ 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会 第一部会 委員
 - ・ 茨城県移動性・安全性向上委員会：国土交通省関東地方整備局：委員長
 - ・ 茨城県公共交通活性化会議：茨城県：代表幹事
 - ・ 茨城県茨城県地方港湾審議会：茨城県：副会長
 - ・ 茨城県土木部公共事業等事前評価委員会：茨城県：委員
 - ・ 茨城県公共事業再評価委員会：茨城県：委員
 - ・ 土浦市公共交通活性化協議会：土浦市：会長
 - ・ 牛久市地域公共交通会議：牛久市：副会長
 - ・ 下妻市地域公共交通会議：下妻市：副会長
 - ・ 取手市都市計画審議会：取手市：委員
 - ・ 筑西市「道の駅」整備推進協議会：筑西市：会長
 - ・ 潮来市地域公共交通活性化協議会：潮来市：委員
 - ・ 佐野市専門委員
 - ・ 東日本高速道路株式会社 茨城地域技術懇談会 委員

氏 名	奥島 真一郎	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	国際総合学類（専任）、社会工学類（兼任）		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、環境倫理		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学概論Ⅴ（国際総合学類必修科目）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）

大学院 公共政策論（社会工学専攻）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 8人/社会工学専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究（C）（代表）

◆ 著書・論文等：

“Understanding Regional Energy Poverty in Japan: A Direct Measurement Approach”（単著）*Energy and Buildings* (SI: Energy Poverty Varieties), forthcoming.

“Engendering an inclusive low-carbon energy transition in Japan: considering the perspectives and awareness of the energy poor”（共著）*USAEE/IAEE Working Paper*, No. 18-372, December 2018.

“Measuring Energy Poverty via Energy Service Usage: The Japanese case”（単著）*USAEE/IAEE Working Paper*, No. 18-352, August 2018.

◆ 学会発表等：

“Energy Poverty in Japan: From Multidimensional and Regional Perspectives”（+ session co-organizer of “Connecting Energy and Equity for Sustainable Futures”）World Social Science Forum 2018, Fukuoka International Congress Center, Fukuoka, Japan, September 26, 2018.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
シス情・数理・茨城高専連携委員会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
国際総合学類四年生クラス担任
国際総合学類運営委員
国際総合学類カリキュラム委員
国際総合学類シス情 TA 担当委員
国際総合学類予算委員
大学院専攻運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Research Fellow, Asian Energy Studies Centre, Hong Kong Baptist University
日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員

氏 名	折原 正訓	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	企業金融，税制		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 計量分析システム演習／金融リスク管理論
 - 大学院 計量分析システム演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0 人
 - 社会工学専攻 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究「企業統治と企業価値：準自然実験アプローチを用いた実証研究」（代表）
 - 全国銀行学術研究振興財団 学術研究助成「機関投資家は企業価値を向上させるか」（代表）
 - 清明会 研究助成「企業統治と企業価値」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
 - Drivers and Consequences of Overcompliance in Japanese Corporate Governance, 15th International Conference, Western Economic Association International
 - Drivers and Consequences of Overcompliance in Japanese Corporate Governance, 大阪大学 数理・データ科学セミナー 金融・保険セミナーシリーズ
 - Do Dividend Tax Rate Spikes Cause Large Shareholders to Sell off Stocks? Evidence from Japan, 大東文化大学経済研究所セミナー
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 大学院入試委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

日本証券經濟研究所 証券稅制研究会 委員

氏 名	甲斐田直子	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	環境経済学、環境心理学、環境配慮行動		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 都市環境評価論／都市計画実習／社会調査実習

大学院 環境政策概論／Introduction to Environmental Policy
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 4名

社会工学専攻 1名

環境科学専攻 9名

持続環境学専攻 2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費（若手研究 A）「価値観に根ざした環境配慮行動の提案：東洋・西洋社会における横断・縦断研究」（代表）

科学研究費補助金（基盤 A）「分布型水土流出モデルの長期解析に基づく流木被害軽減のための森林管理手法の検討」（分担）

国際協力機構草の根技術協力事業「宗教的信念に寄り添った食品廃棄物減量プログラムの実践」（代表（プロジェクトマネージャー））
- ◆ 著書・論文等：

Pham, T. D., Kaida, N., Yoshino, K., Nguyen, X. H., Nguyen, H. T., & Bui, D. T. (2018). Willingness to pay for mangrove restoration in the context of climate change in the Cat Ba biosphere reserve, Vietnam. *Ocean & Coastal Management*, 163, 269-277.

Salim, H. K., Padfield, R., Yuzir, A., Mohamad, S. E., Kaida, N., Papargyropoulou, E., & Nakamura, S. (2018). Evaluating the organizational intention to implement an Environmental Management System: evidence from the Indonesian food and beverage industry. *Business Strategy and the Environment*, 27(8), 1385-1398.

◆ 学会発表等：

Kaida, N., Masuda, Y., & Kaida, K. (2018). Urban green landscape enhances connectedness to nature and pro-environmental behavior and moderates negative moods: Comparative visual experiment on urban nature, built environments and mixed environments. 29th International Congress of Applied Psychology, June 2018, Montreal.

Kaida, N., & Kaida, K. (2018). Optimism enhances pro-environmental behavior: Findings from a longitudinal study in Japan. 2018 American Psychological Association Convention, August 2018, San Francisco.

増田祐太郎・甲斐田直子 (2018). 防災行動の負担感が行動実践に与える影響, 第 58 回土木計画学研究発表会, 大分大学, 2018 年 11 月.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

JUC 防災小委員会事務局（マレーシア日本国際工科院に新設予定の防災修士プログラムに対する日本国内支援大学コンソーシアム内小委員会）
筑波大学マレーシアオフィス運営委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類：学生支援委員会

社会工学専攻：留学生支援委員会、学生相談室

環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、MJIIT 国際共同学位プログラム検討 WG

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員

茨城県鹿嶋市立平井小学校学校地域防災力強化委員会

かすみがうら市廃棄物減量等審議会委員長

氏 名	川島 宏一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	オープンデータ、自治体情報戦略、都市開発戦略		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類： 専門英語（都市計画）、都市と地域の経営行政論、現代まちづくりの理論と実践、都市計画実習

サービス工学学位プログラム： 公共インフラ設計

サービス工学ファシリテーター育成プログラム

社会工学学位プログラム：社会工学ファシリテーター育成プログラム

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 名

社会工学専攻サービス工学学位プログラム 1 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム 3 名

社会工学専攻博士後期課程（社会人）3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 国土交通省受託研究「避難遅れゼロを実現するための「みんなでタイムラインプロジェクト」自治体全域展開方策に関する研究」（代表）
- ・ 社会工学データバンクプロジェクト「AED データセットの標準化および収集領域の拡大」（代表）
- ・ （株）AGREE 学術指導「医療相談アプリ「LEBER」を用いた医療費削減効果のデータ解析に関する学術指導」（代表）

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

- ・ 川島宏一・有田智一・鈴木良介（2018）つくば市による心肺停止傷病者発生位置情報の最寄 AED 管理者との共有が生み出す協働による救命効果に関する研究～公共部門の内部データの外部共有が産み出す協働による問題解決効果に着眼して～，計画行政学会誌，41 巻 3 号，33-41，2018 年 8 月．
- ・ 金崎健太郎・川島 宏一・有田智一（2018）「マイナンバー導入事例に見る政府情報システム調達の現状に関する研究，情報システム学会誌，14 巻 1 号，13-25，2018 年 9 月．
- ・ 里村真吾・須藤純一・伊藤克雄・平出亮輔・神達岳志・溝上博・小林弘・川島宏一・白川直樹・伊藤哲司・富岡秀顯・鮎川一史（2018）住民の水防災意識の向上に向けたマイ・タイムライン開発のための社会実験，土木学会論文集 B1，74 巻 3 号，83-94，2018 年 12 月

◆ 学会発表：

- ・ 「地域デザイン理論における視野と操作性の問題」（討論者），地域デザイン学会、第 7 回全国大会、専修大学、2018.9.1

◆ その他：

講演等

- ・ オープンデータを契機とする地域の活性化、地域情報化広域セミナー2018 in 山梨、総務省 関東総合通信局、2018. 6. 25
- ・ 中間発表講評、水海道一高、水海道二高、石下紫峰高 高大連携プロジェクト 2018、常総市役所、2018. 7. 26
- ・ オープンデータ：これからの自治体運営の鍵、吹田市役所職員研修、吹田市役所、2018. 8. 2
- ・ オープンデータをめぐる社会情勢と活用事例、オープンデータ利活用市民セミナー、京都市下京区役所、京都市役所、2018. 8. 23
- ・ わがこととして災害に備えるために、防災 2018 JOSO，常総市役所、2018. 9. 9
- ・ マイ・タイムラインづくりの常総市全域展開に向けた協働のお願い「マイタイムラインの Web 化」について，防災士連絡協議会研修会，常総市，2018. 10. 28
- ・ オープンデータ～データで社会課題を解決しよう～，竹園高校模擬講義，竹園高校、2018. 11. 6

- ・ 努力は必ず報われる,「いばらき教育の日」推進事業講演会,土浦第一中学校,2018.11.15
- ・ 中間評価,倉敷市データクレイドル事業,(社)データクレイドル・倉敷市役所,2018.11.22
- ・ 成果発表審査,eToda オープンデータ・ハッカソン 2018,戸田市オープンデータアイデアソン,戸田市役所,2018.11.24
- ・ オープンデータ:これからの自治体運営の鍵,社会情報大学院大学,2018.12.8
- ・ 官民データ活用による地域イノベーションとサービス創出,データ利活用セミナー〜データが豊かにする地域社会〜,倉敷市役所,2018.1.24
- ・ 最終審査,チャレンジオープンガバナンス 2018,東京大学,2019.3.10
- ・ 電子版タイムライン作成教材を使用したマイタイムラインづくり,新井木自主防災会ワークショップ,常総市役所,2019.3.24

寄稿等

- ・ オープンガバナンス推進に求められる政府・自治体職員の能力,川島宏一,月刊ガバナンス,216号,pp.29-31,2019.4
- ・ 『教えて欲しかったのに、』を無くしたい〜Shared on Condition Framework の普及を〜,自治日報,2019.3.29
- ・ 「ICT地域活性化」の解説,BS-TBS 徳光&木佐の知りたいニッポン!,2018.10.21.放送,10.28.再放送
- ・ 週刊アスキーでインタビュー記事「自由に使える公共情報・オープンデータで何が変わるのか?」,週刊アスキー,2018.9.6
<https://weekly.ascii.jp/elem/000/000/418/418902/>
- ・ 水害3年防災を考えるシンポジウム常総で講演「わがこととして災害に備えるために」,NHK 首都圏ニュース 845,2018.9.9

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ キャリアサポート部門専門委員会 委員
- ・ 学術情報メディアセンター運営委員
- ・ 系人事委員会委員
- ・ 系運営委員会委員
- ・ 系教育評価委員会委員
- ・ 研究科運営委員会委員
- ・ 研究家就職委員会委員
- ・ 理工学群運営委員会委員
- ・ 社会工学関係就職委員会（委員長）
- ・ 社会工学類長
- ・ 学類運営委員会委員
- ・ 学類入試委員会委員
- ・ 学類カリキュラム委員会委員
- ・ 社会工学関連就職委員会（委員長）

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ 日越大学研究教育評議会 委員
- ・ 日越大学公共政策プログラム（修士課程）教育プログラムリーダー
- ・ 日越大学 公共政策プログラム運営委員会（委員長）
- ・ 日越大学 修士課程公共政策入試監理小委員会 委員
- ・ 筑波大学海外大学教育プログラムユニット運営委員会委員
- ・ 社会工学専攻運営委員会委員
- ・ 社会工学関連就職委員会（委員長）

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

（学外組織からの委嘱委員等）

- ・ 会計検査院 欧州主要国等における IT 化の進展に対応した会計検査の状況に関する調査研究委員会 委員
- ・ 内閣官房 データ流通環境整備検討会オープンデータワーキンググループ 構成員

- ・ 総務省 ICT 地域活性化大賞審査委員
- ・ 総務省 ふるさとテレワーク推進事業評価委員
- ・ 総務省 テレワーク先駆者百選・同総務大臣賞審査委員会 委員
- ・ 総務省 地域情報化アドバイザー（アドバイザーリーダー）
- ・ 総務省 地域情報化アドバイザー幹事会委員
- ・ 総務省 グリーンフィールドへのデータ利活用型スマートシティ展開検討WG 座長員
- ・ 総務省 放送事業の基盤強化に関する検討分科会 委員
- ・ 総務省 まちごとテレワーク調査事業 委員
- ・ 経済産業省 情報共有基盤推進委員会 委員
- ・ 経済産業省 情報共有基盤推進委員会 利用促進ワーキンググループ 座長
- ・ 経済産業省 情報共有基盤推進委員会 ユーザー支援タスクフォース委員
- ・ 国土交通省 受注者によるオンライン型電子納品システム研究会 委員
- ・ 環境省 平成30年度土壌汚染状況調査・対策実施状況等管理システムのあり方検討会 委員
- ・ 福岡県 福岡県官民データ活用推進アドバイザー
- ・ 大阪市 特別参与
- ・ 水戸市 都市計画審議会 会長
- ・ 水戸市 景観審議会 委員
- ・ 水戸市 情報化推進専門委員会 委員
- ・ つくば市 顧問
- ・ つくば市 情報公開・個人情報保護審査会 委員
- ・ つくば市 つくば Society 5.0 社会実装トライアル支援事業審査委員会 委員
- ・ かすみがうら市 まち・ひと・しごと創生有識者会議 座長
- ・ 独立行政法人情報処理推進機構 地方創生と IT 研究会 委員
- ・ （社）オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 利活用・普及委員会 委員
- ・ オープンガバナンスチャレンジ2018 審査員

（学会活動）

- ・ 地域デザイン学会特命担当理事

（以上）

氏 名	倉田 久	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	サプライチェーン・マネジメント		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 経営工学概論／経営情報システム／社工専門英語.

大学院 サプライチェーン・マネジメント.
- ◆ 指導学生数：

学類 2名.

大学院 6名.

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B)「過剰接客サービス存在時の IT 活用—小売業での RFID 動線を対象として—」研究課題/領域番号 18H00903 研究代表者.
- ◆ 著書・論文等：
 - 査読付学術雑誌掲載論文

[1] Kurata, Hisashi, (2019), “Is the information of customer types and preferences to personal selling worth the investment in innovative technology? A modeling approach” *Journal of Retailing and Consumer Services*, forthcoming.

[2] Kurata, Hisashi, Berdymyrat Ovezmyradov, and Yumi Meuthia (2019) “Determining the Optimal Level of Post-Purchase Consumer Customization Associated with a Product’ s Sales Strategy,” *Journal of Japan Industrial Management Association*, forthcoming.
 - Conference Proceedings（査読付き）

[1] Kurata, Hisashi, (2018), “How does the Razor-and-Blade Business Model Work When Cost-Conscious Consumers Prefer Low-priced Generic Items” *Conference proceedings of Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS) meeting 2018*, Hong Kong, China on December 2-5, 20-18.

- [2] Kurata, Hisashi, (2018), “Value of information regarding customer types and preferences when oversaturation of personal service occurs,” *Conference proceedings of Decision Sciences Institute (DSI) annual meeting 2018, Chicago USA* on November 17-19, 2018.

◆ 学会発表等：

- [1] Kurata, Hisashi, “How does the Razor-and-Blade Business Model Work When Cost-Conscious Consumers Prefer Low-priced Generic Items,” Presented at Presented at the Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS) meeting 2018, Hong Kong on December 5-8, 2018.
- [2] Kurata, Hisashi, “Value of information regarding customer types and preferences when oversaturation of personal service occurs,” Presented at the Decision Sciences Institute (DSI) annual meeting 2018, Chicago USA on November 17-19, 2018.
- [3] 倉田 久, 「低ランニングコスト指向の消費者の下での Razor-and-blade model の一考察」日本経営工学会 2018 年秋季研究大会（会場：東海大学高輪キャンパス），2018 年 10 月 27-28 日．
- [4] Kurata, Hisashi, “Performance of the Razor-and-Blade Business Model amid Cost-Conscious Consumers and Third-Party Compatible Products,” Presented at the 2018 INFORMS International Conference, Taipei, Taiwan on June 17-20, 2018.

◆ その他：
特に無し．

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
特に無し．
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
専攻及び学類 予算委員会 委員長．
専攻及び学類 運営委員会 委員．
経営工学主専攻 4 年生クラス担任．

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動（学術団体運営）：

- [1] 公益社団法人日本経営工学会 サービス研究部門，幹事.

◆ 各種活動（学会誌編集）：

- [1] 公益社団法人日本経営工学会 論文誌編集委員会，編集委員.
[2] International Journal of Revenue Management (Inderscience Publiher, Geneva: Swizerland), Editorial Board Member, Editorial Board Member (学会誌編集委員).
[3] Transportation Research Part-E Logistics and Trasnportation Review (Elsevier, Amsterdam: Netherlands), Editorial Board Member (学会誌編集委員).

◆ 各種活動（講演会の企画・運営）：

- [1] 「日本経営工学会 サービス／人間・組織研究部門合同・2018 年度第 2 回講演会」
開催日：平成 31 年 1 月 25 日 17:30～19:00, 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス),
講演者：宮崎敬氏（株式会社オフィスソリューション代表取締役）.
本講演会の企画・運営を日本経営工学会サービス研究部門幹事として担当.
- [2] 「日本経営工学会 サービス／人間・組織研究部門合同・2018 年度第 1 回講演会」
開催日：平成 30 年 11 月 22 日（木）18：30～20：00, 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス), 講演者：内田佳代（株式会社 ETERNAL SMILE 取締役）.
本講演会の企画・運営を日本経営工学会サービス研究部門幹事として担当.

(以上)

氏 名	黒瀬 雄大	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻（社会工学学位プログラム） 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 微積分 II／データ解析／社会工学実習
大学院 ファイナンス：理論と実践
- ◆ 指導学生数：
0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究(A) 「経済・金融多変量データのベイズモデリングと政策・行動の確率的評価」（研究分担）
- ◆ 著書・論文等：
Yuta Kurose and Yasuhiro Omori (2018), “Multiple-block dynamic equicorrelations with realized measures, leverage and endogeneity,” *Econometrics and Statistics*, in press.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
アドミッションセンター専門委員／教育図書委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 2 年次クラス担任
社会工学専攻 論文委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
学術誌査読

氏 名	小西 祥文	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	実証ミクロ経済学, 応用計量経済分析, 環境と交通の経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：公共経済学／戦略行動システム演習
 - 大学院：統計分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0 名／社会工学専攻 前期 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・ 科学研究費 基盤研究（C）（研究代表者）「非都市部の交通需要の構造推定と新交通システムの可能性に関する基盤研究」
 - ・ 離散選択実験手法を応用したライドシェア市場の潜在価値の推計と最適設計
 - ・ 離散連続選択モデルを応用したカーシェアリングの温暖化ガス削減効果推計
 - ・ 経済産業研究所「人工知能のマクロ・ミクロ経済動態に与える影響と諸課題への対応の分析」プロジェクト（研究分担者）
 - ・ 自動車燃費規制の技術歪曲効果に関する実証研究
 - ・ 裁量労働制の経済効率性に関する実証研究
 - ・ 茨城県 筑西市「地域公共交通システムの充足へ向けた定量的基盤研究」
 - ・ 株式会社 AGREE 社「医療相談アプリを用いた医療費削減効果に関する研究」
- ◆ 著書・論文等：
 - ワーキングペーパー：
 - ・ Do Regulatory Loopholes Distort Technical Change? Evidence from New Vehicle Launches under the Japanese Fuel Economy Regulation (with S. Managi) (2019)
 - 解説論文：
 - ・ 小西祥文「交通と環境」『環境経済・政策学事典』（環境経済・政策学会編）丸善出版, 2 頁, 2018 年 5 月
 - ・ 小西祥文「方向付けられた技術進歩と環境」『環境経済・政策学事典』（環境経済・政策学会編）丸善出版, 2 頁, 2018 年 5 月

学術論文の審査員：

Journal of Environmental Economics and Management

Review of Industrial Organization

Journal of the Economics of Ageing

◆ 学会発表等：

東京大学ミクロワークショップ

政策研究大学院大学（GRIPS）ポリシーモデリングワークショップ

経済産業研究所 研究会×2

◆ その他：

実証ミクロ経済学セミナーの開催：

2018 年 1 月 米ウィスコンシン大学 Corbett Grainger 氏を招聘

2018 年 12 月 慶応義塾大学 中嶋亮氏, タフツ大学 田中伸介氏を招聘

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

若手研究時間捻出事業 世話人

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）

学類運営委員会

専攻運営委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

早稲田大学 環境経営経済研究所 招聘研究員

東京財団政策研究所「政策効果に関する知見データベース」助言提供

氏 名	近藤 文代	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	モバイルマーケティング、ベイジアンモデル、POSデータ 解析、状態空間モデル、時系列分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 担当授業科目：専門英語、経営の科学、マーケティング工学、社会調査実習

大学院 担当授業科目：マーケティングサイエンス、ファイナンス：理論と実践（野村證券提供講座）

◆ 指導学生数：

◆ 社会工学類 6 人／社会工学専攻（前期） 9 人／社会工学専攻（後期） 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究（C）「階層ベイズによるマルチデバイス状況を考慮」（代表）
2. 科学研究費 基盤研究（A）「データ・理論・分析手法の統合によるマーケティングモデルの進化と理論構築」（分担）

◆ 著書・論文等：

1. 中野 暁, 近藤 文代 (2018), 混合隠れマルコフモデルによる オンライン・オフラインチャンネル選択行動の モデリング, オペレーションズ・リサーチ, 63(10), pp.635-646 .
2. 中野 暁, 近藤 文代 (2019), 消費者のオンライン購買に関する時系列変化とその要因——購買特性および EC 利用デバイスの観点——行動計量学, 46(1), pp.19-31.
3. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2019), International Perspective: case of Japan, (ed.) Tugrul U Daim in Managing Mobile Technologies, pp.153-185. World Scientific.
4. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2019), A Comparative Cross-temporal Study on the Acceptance of Multiple Mobile Entertainment Services among Young Japanese Users, International Journal of E-Services and Mobile Applications, 11(4) (forthcoming).

5. Kondo, F. N. and Ghyas, Q. M. (2019), The Impact of Mobile Information Services on the Quality of Life of Internet Users in Japan, Journal of Service and Knowledge Management, 2(2) (forthcoming).

◆ 学会発表等： ※国内外学会発表などの実績

1. Nakano, Satoshi and Kondo, Fumiyo N. (2018), Consumer Online Channel Use under Market Growth: The Influence of Purchase Characteristics and E-Commerce Web/App Use in Mobile and PC, The 20th Asia Pacific Management Conference on September 7, 2018 at Matsumoto University, Matsumoto.
2. 近藤文代, 武村敦(2018), 集計データを用いたランダム係数ロジットモデルによるベイズ推定, 2018 年度統計関連学会連合大会, 9 月 12 日, 中央大学 後樂園キャンパス.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：ウィーン経済経営大学（学術協定校）の調停教員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）： FD 委員

4. 学外の社会貢献

氏 名	佐野 幸恵	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス、ソーシャルメディア		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：線形代数 I, プログラミング実習

大学院：社会シミュレーション

◆ 指導学生数：

社会工学類 1 人／社会工学学位 P（前期）3 人／サービス工学学位 P（前期）2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 若手研究（B）「想起効果を内在する集合的記憶モデルの開発」（代表）

◆ 著書・論文等：

1. Y. Sano, H. Takayasu, S. Havlin, and H. Takayasu,
“Identifying long-term periodic cycles and memories of collective emotion in online social media,” PLoS ONE, vol.14, no.3, article number e0213843 (17 pages), Mar. 2019.
2. N. Masuda, S. Kojaku, and Y. Sano,
“Configuration model for correlation matrices,” Physical Review E, vol.98, no.1, pp.012312-1 - 012312-18, Jul. 2018.
3. Y. Sano,
“Correlations and fluctuations in the word sets of collective emotions,” Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE, vol.9 no.3 pp. 382-390, Jul. 2018.

◆ 学会発表等：

1. Y. Sano,
“Structural heterogeneity in fake news propagation network,” The 6th International Workshop on Physics of Social Complexity (PoSCo), Pohang, Korea, May 31 – June 2 (2018). [oral]

2. Y. Sano, Z. Zhao, Z. Jichang L. Orr, H. Takayasu, M. Takayasu, D. Li, and S. Havlin,
“Structural difference between fake and real news propagation networks,”
International School and Conference on Network Science (NetSci2018), Paris,
France, June 11 – June 15 (2018). [poster]
3. 佐野幸恵, 高安秀樹, Shlomo Havlin, 高安美佐子, “ウェブにおける集合的感情の周期と記憶,” 人工知能学会 合同研究会 第 4 回ウェブサイエンス研究会, 慶應義塾大学, 11/22 (2018). [招待講演]
4. 佐野幸恵, Orr Levy, 高安秀樹, Shlomo Havlin, 高安美佐子, “フェイクニュース伝播ネットワークの構造的異質性,” 日本物理学会 2018 年秋季大会, 同志社大学, 9/9-12 (2018).
5. 佐野幸恵, “論文謝辞ネットワークのモチーフ分析,” 平成 30 年度 統計数理研究所共同研究集会「社会物理学の新展開」, 統計数理研究所, 3/25 (2019).

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ 附属図書館運営委員
 - ・ 筑波大学主催リケジョサイエンス合宿 講師 (2018 年 8 月 20 日)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - ・ 学類・大学院 FD 委員
 - ・ 学類 就職委員、
 - ・ SFT 「プログラミング入門」WG 主査

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会：
 - ・ 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 委員
 - ・ 男女共同参画推進委員会 委員
- ◆ 男女共同参画学協会連絡会：
 - ・ 大規模アンケート調査実行委員会/アンケート解析 WG 委員

氏 名	澤 亮治	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 社会工学実習/ゲーム論/経済学入門Ⅰ

大学院： ゲーム理論/行動・実験経済学

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人/社会工学学位（前期） 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究「社会選択問題への進化ゲーム理論的アプローチ」（代表） 課題番号：18K12740

◆ 著書・論文等：

Sawa, Ryoji, “Stochastic stability under logit choice in coalitional bargaining problems”, Games and Economic Behavior 113, pp.633-650

Sawa, Ryoji and Jiabin Wu, “Prospect dynamics and loss dominance”, Games and Economic Behavior 112, pp.98-124

Sawa, Ryoji and Jiabin Wu, “Reference-dependent preferences, super-dominance and stochastic stability”, Journal of Mathematical Economics 78, pp.96-104

◆ 学会発表等：

国際会議発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, Learning, Evolution, and Games (LEG2018), Lund, Sweden, June 4-5, 2018

招待セミナー発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, 慶応義塾大学, 2018年12月14日

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻予算委員会委員

社会工学専攻カリキュラム委員会委員

社会工学類予算委員会委員

社会工学類卒研配属マッチング委員会委員

社会工学類 1 年生担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

海外大学院留学説明会「経済学博士課程とその後」講演者（主催：米国大学院学生会、後援：船井情報科学振興財団、米国大使館）

氏 名	繁野麻衣子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化，ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／社会工学特設講義
大学院 応用最適化／離散数理

◆ 指導学生数：

学類 6人／社会システムマネジメント，社会工学学位（後期） 2人／社会工学学位（前期） 13人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（B）「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」（代表）

科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（分担）

科学研究費 基盤研究（B）「新しい肺移植制度の構築と評価：ドナー交換移植の可能性」（分担）

科学研究費 挑戦的研究（萌芽）「地域協働情報プラットフォームの構築と評価、資源余剰の最適割付けと社会合理的分配」（分担）

共同研究（経費無し） 産業総合研究所「リソース最適化に関する研究」

共同研究 株式会社 LIXIL「大規模データの解析による事業戦略立案の方法論」

共同研究 松田電機工業所「中小企業における Big Data 解析の方法論の確立」

◆ 著書・論文等：

堀川健一郎，南翔太，佐藤啓太，渡邊英理，吉田岳人，矢野正基，繁野麻衣子，イベント参加者のためのライドシェアサービスの支払い料金配分設計，*デンスーテクニカルレビュー*，23（2018）159 - 166

H. Enomoto, M. Hachimori, S. Nakamura, M. Shigeno, Y. Tanaka, and M. Tsugami, Pure-strategy Nash equilibria on competitive diffusion games, *Discrete Applied*

Mathematics, 244 (2018) 1-19

Y. Kimura, K. Shimizu, T. Tsuboi, D. Hasegawa, K. Ishikawa, K. Kimura, M. Tanaka, K. Ozeki, J. Zhou and M. Shigeno, An approach to cooking process scheduling for a family restaurant, Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing 12 (2018) 0076

周 潔瑩, 坪井 哲也, 長谷川 大輔, 石川 浩司, 木村 恵介, 田中 未来, 大関 和典, 繁野 麻衣子, 調理手順スケジューリングモデルに対するルール設計と検証, 情報処理学会論文誌数理モデル化と応用 (TOM) , 11 (2018) 63 - 74

U. Perera, M. Shigeno, and U. Sumita, Development of Segmentation Algorithm for Identifying Lifecycle of Smartphone Applications, International Journal of Business and Information 13 (2018) 267-294

Y. Miyagawa, Y. Watanabe, M. Shigeno, K. Ishii, A. Takefusa, and A. Yoshise, Bounds for two static optimization problems on routing and spectrum allocation of anycasting, Optical Switching and Networking 31 (2019) 144 - 161

◆ 学会発表等：

I. Higashikozono, S. Asaba, M. Shigeno, and U. Sumita, On an Effective Carrying Set of Repair Parts for a Housing Equipment Company to Minimize Cost per Repair Call: Text Mining and Combinatorial Optimization Approach, International Conference on Business and Information, 2018 (韓国)

青木 佑真, 石井 紀代, 工藤 知宏, 繁野 麻衣子, 竹房 あつ子, 吉瀬 章子, 多様なサービスを柔軟に提供する光伝送網設計の一手法, スケジューリングシンポジウム 2018 (小樽)

藤原和樹, 繁野麻衣子, 住田潮, 不均衡データに対する多段階学習を用いた分類アルゴリズムの提案とその検証, 情報処理学会第 121 回数理モデル化と問題解決研究発表会 2018 (東京)

繁野麻衣子, 事例研究からみるオペレーションズ・リサーチ手法：再訪とその展望, 日本経営工学会中国四国支部第二回講演会 (招待講演) 2019 (広島)

藤原和樹, 繁野麻衣子, 住田潮, 不均衡データに対する多段階学習を用いたアンサンブル

モデルによる 2 クラス分類アルゴリズムの提案, 情報処理学会第 122 回数理モデル化と問題解決研究発表会 2019 (湯布院)

◆ その他:

なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

研究科 入試実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

大学院 カリキュラム委員・入試委員/学類 カリキュラム委員・クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

数理モデル高大連携

氏 名	Tran Lam Anh Duong	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：国際金融論/国際公共システム演習
大学院：国際経済分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費（若手研究）「グローバル・バリュー・チェーンの形成メカニズムに関する分析」（代表）
公益財団法人ヒロセ国際奨学財団（研究助成）「経済のグローバル化が市場の不完全性を通じて所得の不平等に与える影響の分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
Furusawa, T., Konishi H. and Tran L.A.D. (2019). International Trade and Income Inequality forthcoming in *Scandinavian Journal of Economics*
- ◆ 学会発表等：
Tran L.A.D. and Deseatnicov I. (2017). The Impact of Technology Level on Global Value Chain Formation
 - ・ The 14th Australasian Trade Workshop, RMIT University, Melbourne, Australia
 - ・ The 15th International Conference (Western Economic Association International), Keio University, Tokyo, Japan
 - ・ The 11th FIW-Research Conference in International Economics, Austrian Institute of Economic Research, Vienna, Austria
 - ・ Japanese Economic Association, Autumn Meeting, Gakushuin University, Tokyo, Japan
 - ・ The 2018 Asian Meeting of the Econometric Society, Sogang University, Seoul, Korea

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
日越大学 修士課程公共政策プログラム（ベトナム）：授業（Macroeconomics for Public Policy）、修士論文指導、運営
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 広報委員会 委員
社会工学専攻 広報・新入生オリエンテーション委員会 委員
社会工学類 クラス担任（2年生）

氏 名	鈴木 勉	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会工学専攻社会工学学位プログラム（分担），社会システムマネジメント専攻（分担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会工学専攻社会工学学位プログラム（分担），サービス工学学位プログラム（分担），環境科学専攻（分担）		
担当学類	社会工学類，地球規模課題学士学位プログラム（分担）		
研究分野	立地科学，都市空間構造，持続可能型都市形態，都市リスク分析，地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を探るⅡ／筑波大学から診る環境問題
社会工学類 線形代数Ⅰ／都市計画実習／都市解析
博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／
都市リスク分析演習／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク工学専攻 6人／社会工学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「集約型都市における土地利用・都市施設・交通網・交通行動の関係性に関する研究」

消防防災科学技術研究推進制度 「地震火災時の不完全な覚知火災情報に基づくリアルタイム避難誘導支援に関する研究」（分担）

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」研究開発課題「道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した総括的研究」（分担）

トヨタ自動車共同研究「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

川西勇輔・鈴木 勉：宅配便の配送方法の改善による配送車の走行距離の削減効果に関する研究，都市計画論文集，Vol.53, No.1, pp.51-56, 2018.

巖 先鏞・鈴木 勉：東京区部における用途地域区分別の土地利用構成比と混合度の変化に関する研究，都市計画論文集，Vol.53, No.2, pp.116-123, 2018.

巖 先鏞・山村拓巳・鈴木 勉：立地合致度指標を用いた公共施設立地の商業集積との空間的關係に関する研究，都市計画論文集，Vol.53, No.3, pp.1442-1447, 2018.

鈴木 勉：拠点と軸の組合せに着目した都市構造の数理最適化，都市計画論文集，Vol.53，No.3，pp.1472-1477，2018.

長谷川大輔・鈴木 勉：路線網形状を考慮したバス・デマンド型交通併用効果の分析，GIS－理論と応用，Vol.27，No.1，pp.1-11，2019.

Sunyong Eom, Tsutomu Suzuki: Spatial distribution of pedestrian space in central Tokyo, International Review for Spatial Planning and Sustainable Development, Vol.7, No.2, pp.108-124, 2019.

◆ 学会発表等：

Daisuke Hasegawa, Tsutomu Suzuki: Route planning for fixed route transit by maximizing OD flow capture, The 29th European Conference on Operational Research (EURO XXIX), Valencia, Spain, July 8-11, 2018.

Liling Liu, Tsutomu Suzuki: Comparative Study on E-bike Applicability in Japanese Cities, The International Conference of Asian-Pacific Planning Societies 2018 (APPS 2018), Ho Chi Minh City, Vietnam, August 24, 2018.

長谷川大輔・鈴木 勉：OD フロー捕捉からみたコミュニティバスの路線網最適化，日本オペレーションズ・リサーチ学会 60 周年記念事業本部 SSOR2018，水上，群馬，2018.

巖 先輔・落合 遥：市区町村単位の人口密度と施設密度の関係に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.591-592，2018.

鈴木 勉：道路密度と移動方向の関係について，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集，pp.38-39，2018.

長谷川大輔・鈴木 勉：デマンド型交通の導入状況の推移とその空間的・統計的特徴，2018 年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2018)，2018.

Liling Liu, Tsutomu Suzuki: Transport Efficiency of Mixed Traffic with E-bikes Using Multi-agent Approach, Urban Operations Research Workshop 2018, Nanzan University, Nagoya, December 10-11, 2018.

川西勇輔・鈴木 勉：警備ゲームモデルに基づく警備戦略と犯罪抑制効果，都市の OR ワークショップ 2018，南山大学，2018 年 12 月 10-11 日.

長谷川大輔・渡司悠人・川西勇輔・鈴木 勉・大澤義明：電柱の空間解析と近接グラフによる電線網構築，都市の OR ワークショップ 2018，南山大学，2018 年 12 月 10-11 日.

劉 俐伶・鈴木 勉：Transport Efficiency of Mixed Traffic with E-bike in Road Space Reallocation Scenarios, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集，pp.42-43，2019.

渡司悠人・長谷川大輔・鈴木 勉・大澤義明：電柱密度に関する考察 - つくば周辺を対象として -，日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集，pp.166-167，2019.

太田 諭・遠藤靖典・鈴木 勉：ノイズ項を導入したエントロピー正則化ファジィ c-多様体法の配給路設定問題への応用について，日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.230-231, 2019.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科戦略委員会委員
学士オールラウンド型学士プログラム運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻学務・達成度評価実施委員会委員長
リスク工学専攻研究企画委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員会委員，国際委員会委員
応用地域学会応用地域学研究編集委員
土木学会技術推進機構上席研究員
茨城県県西地域公共交通確保対策協議会委員長
常総市公共交通活性化協議会会長
守谷市公共交通活性化協議会委員
神栖市地域公共交通会議委員
筑西市地域公共交通会議委員
八千代町地域公共交通会議委員

氏 名	TURNBULL, Stephen John	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム兼サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	社会経済（数理経済学、産業経済学）		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - （MSE）情報ネットワークの経済学（MPPS）社会工学のための数学
 - （学類）専門英語、経済動学（総合科目）経済学入門 II
- ◆ 指導学生数：
- ◆ （MPPS）10（研究生）5（学類）1

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

統計学に関する科研（国際基督教大学教授 金澤雄一郎（代）、法政大学教授 明城聡と共同研究）が続投。「圏論によるゲームの分析という挑戦的テーマを続けた。
- ◆ 著書・論文等：
 - Rasouli Ghahroudi, M., Y. Hoshino, and S. J. Turnbull (2018). *Foreign Direct Investment: Ownership Advantages, Firm Specific Factors, Survival and Performance*. Singapore: World Scientific. <https://doi.org/10.1142/10942>, October, 180pp.
 - Yoshida, M. and S. J. Turnbull (2018). “Optimal provision of public intermediate goods with monopolistic competition: A note.” *International Journal of Economic Theory* **15**, pp. 209–222. doi:10.1111/ijet.12165.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

留学生支援委員会、学生生活相談委員、コンピュータ委員。

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - （高大連携）DoDEA STEMinar プロジェクト指導、発表会司会。
 - Google Summer of Code Organization Administrator (GNU Mailman, Python Software Foundation) and Mentor (GNU Mailman)。
 - GNU Mailman core developer.

氏 名	高野 祐一	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化，金融工学，機械学習		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 ファイナンス／社工専門英語／問題発見と解決／経営の科学 I ／フレッシュマンセミナー

大学院 投資科学

◆ 指導学生数：

社会工学専攻（前期：サービス工学） 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 若手研究（B）「混合整数最適化を用いた制約付き変数選択による高精度パラメータ推定」（代表）
2. 科学研究費 基盤研究（C）「プロジェクトを成功に導く見積りと遂行体制・契約方式の研究」（分担）
3. 科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（分担）
4. 科学研究費 基盤（A）「新時代の最適化モデルに基づく意思決定支援プラットフォームの研究と開発」（分担）

◆ 著書・論文等：

1. R. Tamura, K. Kobayashi, Y. Takano, R. Miyashiro, K. Nakata and T. Matsui, "Mixed Integer Quadratic Optimization Formulations for Eliminating Multicollinearity Based on Variance Inflation Factor," Journal of Global Optimization, Vol. 73, No. 2, pp. 431-446 (2019).
2. N. Ishii, Y. Takano and M. Muraki, "A Resource Flow Based Multistage Dynamic Scheduling Method for the State-Dependent Work," In M. Obaidat, T. Oren and F. Rango (eds.), Simulation and Modeling Methodologies, Technologies and Applications, Advances in Intelligent Systems and Computing, Vol. 873, pp. 300-316 (2019).
3. 高橋良介, 高野祐一, 「LDPC 符号に対するタブー探索法に基づく勾配降下ビット反

転復号法」，情報科学研究（採録決定）.

◆ 学会発表等：

1. Y. Takano and R. Miyashiro, "Recent Advances in Mixed-integer Optimization Approaches to Feature Subset Selection," INFORMS 2018 Annual Meeting, Phoenix Convention Center, U.S.A., November 4-7, 2018.
2. 高野祐一，宮代隆平，「交差確認規準による回帰式の最良変数選択」，日本オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会@千葉工業大学, 3/14-15, 2019.
3. 高野祐一，後藤順哉，「コヒレントリスク指標に基づくポートフォリオの線形制御政策最適化」，日本オペレーションズ・リサーチ学会 2019 年春季研究発表会@千葉工業大学, 3/14-15, 2019.
4. 高野祐一，「混合整数最適化によるロジットモデルの変数選択」，科研費「新時代の最適化モデルに基づく意思決定支援プラットフォームの研究と開発」2018 年度ワークショップ@東京工業大学, 9/10, 2018.
5. 高野祐一，「データ解析コンペティションへの招待」，日本オペレーションズ・リサーチ学会 本部 SSOR 2018@水上温泉, 8/29-31, 2018.

◆ その他：

無し

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

1. 社会工学類・社会工学専攻 広報委員
2. 社会工学類 1 年生 4 クラス担任
3. SF ターム WG メンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関誌編集委員

◆ Scientific Committee & Local Organizing Committee, International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis -- International Conference on Optimization Techniques and Applications (NACA-ICOTA2019)

◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 60 周年記念事業 本部 SSOR2018 交流支援委員

氏 名	谷口綾子	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼任	
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市交通計画，態度行動変容研究，都市リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画実習，都市計画インターンシップ，交通運輸政策，都市・地域・環境を探索 I

【大学院前期課程】 都市安全管理特論，リスク工学特別演習，リスク工学基礎，
都市リスク・コミュニケーション，リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 4 名 社会工学専攻 1 名 社会工学類 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費(基盤 B(代表)) ASEAN 諸国におけるモビリティ・マネジメントの実行可能性に関する実証分析
2. 科学研究費(挑戦的萌芽)(代表) 道路上の異モード間コミュニケーションの生起と社会的受容
3. 科学研究費(基盤 B)(分担) 成人病化する都市の退化マネジメントによる自律再生 (代表：筑波大学谷口守)
4. 科学研究費(基盤 B(分担)) 子育て世帯の多様なライフスタイル実現のための都市のバリアと心のバリアの緩和策(代表：宇都宮大学大森宣暁)
5. 受託研究 NEDO(分担) 「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム／大規模実証実験／社会の受容性に関する総合調査」のうち「海外事情を対象に，市民目線から自動運転受容性向上対策のポイントを調査」(代表：名古屋大学森川高行)

◆ 著書・論文等：

■ 査読付き原著論文

- (1) Nishihori, Y., Kimura, K., Taniguchi, A., Morikawa, T. (2018) What Affects Social Acceptance and Use Intention for Autonomous Vehicles --Benefits, Risk Perception, or Experience? -Meta-Analysis in Japan-", International Journal of Intelligent Transportation Systems Research. DOI: <https://doi.org/10.1007/s13177-018-0170-x>

- (2) **Taniguchi, A.**, Sasaki, A., Sasaki, H. (2018) Relationship between travel behavior and body mass index – analysis on Japanese nationwide person trip survey in 2015, Journal of Transport & Health, Volume 9, Supplement, pp. S51-S52. <https://doi.org/10.1016/j.jth.2018.05.037>
- (3) 西堀泰英, 森川高行, **谷口綾子**, 富尾祐作: 無人タクシー試乗体験時の利用意向の要因分析, 自動車技術会論文集, 第 49 巻 第 4 号, pp.874-879. 2018. DOI <https://doi.org/10.11351/jsaeronbun.49.874>
- (4) Waygood, E.O.D., Friman, M., **Taniguchi, A.**, Olsson, L.(in press) Children's life satisfaction and travel satisfaction: Evidence from Canada, Japan, and Sweden, Travel Behaviour and Society (Elsevier), Vol.xx, pp.xx-xx. DOI:<https://doi.org/10.1016/j.tbs.2018.04.004>

■査読付きプロシーディングス

- (1) **Taniguchi, A.**, Enoch, M, Ieromonachou, P., Zilin, W., Paschek, F., Morikawa, T. (2019) How public opinion was changed by the world's first driverless car-caused pedestrian fatality, Proceedings of the 98th Transportation Research Board.
- (2) Waygood, E.O.D., Olsson, L., **Taniguchi, A.**, Friman, M. (2019) Children's Independent Mobility and Social Media Use on Face-to-Face Social Interaction with Friends, Proceedings of the 98th Transportation Research Board.
- (3) **Taniguchi, A.**, Itsubo, S., Tamada, K., Kawashima, Y. (2018) Social Acceptance of Autonomous Vehicles in Japan -Before-after trial in Field Operation Tests of AVs based at road-side stations in rural depopulated areas, Proceedings of Intelligent Transport System World Congress,
- (4) Sasaki, A., Sasaki, H., **Taniguchi, A.** (2018) Relationship between travel behavior and body mass index - analysis on Japanese nationwide person trip survey in 2015, Proceeding of 4th International Conference on Transport and Health, held in Mackinac Island, Michigan, U.S., June 2018.
- (5) Kanda, Y., Akagi, D., **Taniguchi, A.** (2018) Can promoting use of public transportation improve people's health? - Relationship Analysis Among Health, Lifestyle and Transportation Habit Considering Gender Difference-, Proceeding of 4th International Conference on Transport and Health, held in Mackinac Island, Michigan, U.S., June 2018.

■著書: 該当無し

◆ 学会発表等:

- (1) 谷口綾子, Marcus Enoch, Petros Ieromonachou, 王子霖, Fanny Paschek, 森川高行: 世界初の自動運転システム歩行者死亡事故が英国市民の社会的受容に与えた影

響, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.58, 2018.

- (2) 崔文竹, 御手洗陽, 谷口綾子, 谷口守: 健康増進に向けた生活習慣の継続阻害要因に関する分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.58, 2018.
- (3) Wang Zilin, 谷口綾子, Marcus Enoch, Petros Ieromonachou, 森川高行: 自動運転システムの社会的受容 ― 日英比較分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.58, 2018.
- (4) 佐々木彩葉, 谷口綾子, 白水真理子, 中原慎二: 糖尿病外来患者における交通行動実態把握: 神奈川県横須賀市を対象として, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.58, 2018.
- (5) 瀬藤乃介, 谷口綾子: 通学状況が子どもの心身の健康に与える影響, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (6) 谷口綾子, 藤村美月: 「相手の気持ちを考える」交通安全セミナーの実施と効果検証, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (7) 柴田凌平, 谷口綾子, 中原慎二: ベトナムハノイ市におけるモビリティ・マネジメントのフィージビリティ調査分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (8) 佐々木彩葉, 佐々木洋典, 谷口綾子: BMI と交通行動・都市環境の関連分析: 2015年度全国 PT 調査データを用いて, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (9) 西堀泰英, 木村航太, 谷口綾子, 森川高行: 自動運転システムの普及に対する賛否意識等の社会受容性に関するメタ分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (10) 川嶋優旗, 谷口綾子, 井坪慎二, 玉田和也, 澤井聡志: 自動運転公共交通サービスに対する社会的受容の規定因, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (11) 井坪慎二, 玉田和也, 澤井聡志, 谷口綾子: 道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験における社会受容性分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.
- (12) 赤木大介, 神田佑亮, 谷口綾子: モビリティ環境の相違と健康との関連性に関する地域間比較分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.57, 2018.

◆ その他: (論説)

- (1) 谷口綾子: 自動運転の社会的受容 ― その規定因と変容の可能性, 自動車技術(自動車技術会誌: 特集 自動運転と社会的受容), Vol. 73, No.2 (2019年2月号), pp.xx-xx, 2019.
- (2) 谷口綾子: 自動運転システムの社会的受容 ― 賛否意識とリスク認知, 自動車交通研究: 環境と政策(最近の調査研究から), 日本交通政策研究会, pp. 26-27, 2018. DOI: https://doi.org/10.20717/jrctptpj.2018.0_262018.

- (3) 谷口綾子：心理学を土木に活かすーモビリティ・マネジメントの動機付けとフレーミング効果，土木技術，(2018 年 10 月号)，pp.9-14, 2018.
- (4) 谷口綾子：北海道を離れ，北海道を想う，開発こうほう，2018 年 6 月号，pp.12-13, 2018.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
研究戦略室 URA 室員
筑波大学交通安全会 理事
システム情報工学研究科 広報委員長
つくば 3E フォーラム 都市構造タスクフォース座長
つくばエコシティ推進グループ：キャンパス交通システムの利用促進
筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入，マネジメントと利用促進
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻：広報委員長，障害学生支援委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 講演・パネルディスカッション
 - (1) つくば市エコドライブ・エコ通勤セミナー 基調講演 「エコ通勤&エコドライブ：バスや電車をかしこく使いこなそう」 2019 年 3 月 6 日(つくば市)
 - (3) 東京都市圏交通計画協議会(パーソントリップ調査_生活圏 WG)市区町村セミナー，パネリスト，2019 年 2 月 26 日
 - (4) 第 97 回土木計画学ワンデイセミナー 健康政策と都市構造を考えたまちづくりの展開方策，話題提供 「交通行動と健康の関連分析からみた行動変容の可能性」 2019 年 1 月 28 日(土木学会)
 - (5) 国際学術セミナー New Mobility and Society Combining Autonomous Driving Technology and Sharing Service: 話題提供 「Social acceptance of autonomous vehicles in Japan and UK: focused on risk perception and trust」，2018 年 11 月 30 日(東京工業大学)
 - (6) JICA 集団研修 総合都市交通計画「Mobility Management: essence and key points」講師 2018 年 11 月 28 日
 - (7) 金沢市交通まちづくり市民フォーラム「バスや電車をかしこく使いこなそう」 基調講演(金沢学生の街市民交流館) 2018 年 11 月 3 日
 - (8) 国土交通大学校 道路計画「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 講師 2018 年 10 月 12 日

- (9) JICA 社会基盤平和構築部 所内研修会「Mobility Management: essence and key points」講師 2018 年 9 月 27 日
- (10) 交通エコロジーモビリティ財団 第 8 回 地域の交通環境対策推進者養成研修会(福井) 講師 2018 年 9 月 3 日～5 日
- (11) 筑波大学 教員免許更新講習「実習と実験による役に立つ防災教育」講師 2018 年 8 月 3 日
- (12) 秦野市交通スリム化教育 教員研修 「学校教育における交通・環境教育(TDM 教育)の意義」 講師 2018 年 7 月 30 日
- (13) 第 125 回 運輸政策コロキウム 鉄道バリアフリー施設整備の効果と費用負担のあり方(五十嵐達哉), コメンテーター, 運輸総合研究所, 平成 30 年 7 月 24 日
- (14) 一般財団法人計量計画研究所 第 10 回モビリティ・マネジメント技術講習会 基調講演「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」2018 年 7 月 5 日.

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- JICA ラオス The Project for Institutional Capacity Building for Sustainable Urban Transport System in Lao PDM 国内支援員 2019 年 1 月～
- 国土交通省 関東地方整備局 東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会 生活圏WGの委員 2018 年 9 月～
- 国土交通省 航空局 熊本空港特定運営事業等審査委員会 2018 年 1 月～
- 国土交通省 青森国道事務所・青森県庁 奥入瀬溪流・十和田湖周辺交通マネジメント検討委員会 委員 2017 年 12 月～
- 群馬県庁 モビリティ・マネジメント施策に関するアドバイザー 2017 年 11 月～
- 国土交通省総合政策局 エコ通勤等承認・普及促進委員会 委員 2017 年 8 月～
- 千葉県庁 地域振興連絡協議会 成田空港周辺の公共交通のあり方検討委員会 委員 2017 年 11 月～
- 滋賀県庁 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討委員会委員 2017 年 10 月～
- 東京都渋谷区 渋谷区都市計画審議会専門部会 2017 年 9 月～
- 東京都足立区 足立区総合交通計画改定協議会委員 2017 年 10 月～
- 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017 年 4 月～
- 国土交通省 行政事業レビュー有識者委員会 委員 2017 年 4 月～
- 茨城県庁 政策評価委員会 委員 2017 年 4 月～
- 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨時委員 2016 年 11 月～
- 国土交通省北海道局 国土審議会北海道開発分科会計画推進部会 委員 2016 年 11 月～
- 藤沢市 藤沢市地域公共交通会議 モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)

検討委員会 委員長 2015 年 7 月～

- 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015 年 7 月～
- 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員
2014 年 9 月～
- 国土交通省 都市局 全国都市交通特性調査検討会 WG 委員 2014 年 6 月～
- 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員
2014 年 6 月～
- 国土交通省 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会 委員
- 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012 年 1 月～
- 茨城県 第 74 回国民体育大会茨城県準備委員会 輸送・交通専門委員会 委員
2014 年 1 月～
- 静岡県 道路技術審議会 委員 2012 年 10 月～
- 龍ヶ崎市 地域公共交通活性化協議会 副委員長
- 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会
委員 2009 年 1 月～
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008 年 10 月～
- 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師 2005 年～
- 交通エコロジー・モビリティ財団 EST 普及推進委員会 委員 2005 年～

以上

氏 名	谷口 守	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域計画，交通計画，環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 フレッシュマンセミナー／都市計画実習／都市計画原論／総合科目「都市・地域・環境を探究」／

大学院前期課程 都市と環境／公共インフラ計画／社会基盤計画学／美しい国土づくりへの挑戦（Ⅱ）

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学専攻（博士後期）4人／社会工学専攻（博士前期）12人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「成人病化する都市の退化マネジメントによる自律再生」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「インビジブルシティ（見えない都市）の「見える化」によるハイブリッドなまちづくり」(代表)

科学研究費 基盤研究(B)「社会基盤計画の遂行におけるレジリエンス能力の解明」(分担)

共同研究 トヨタ自動車(株)「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」(分担)

寄付金 一般財団法人小林国際都市政策研究財団 研究助成(代表)

◆ 著書・論文等：

◆ 著書

M. Taniguchi: Ensen Kaihatsu (railway area development) in Japan: a comparison with transit-oriented development (TOD), J. Zhang and C. Feng: Routledge Handbook of Transport in Asia, Routledge, Taylor & Francis Group, pp.287-295, 2018.6.

谷口守: 生き物から学ぶまちづくり、バイオミメティックスによる都市の生活習慣病対策、コロナ社、2018.10.

谷口守: コンパクトシティ政策の動向と不動産ビジネスの転換、浅見泰司・中川雅之編著：コンパクトシティを考える、pp.68-81、プロGRESS、2018.10.

谷口守：実践 地域・まちづくりワーク、成功に導く進め方と技法、森北出版株式会社、2018.10.

谷口守ほか：モビリティ政策による持続可能なまちづくり、第 20 回都市経営セミナー、日本都市センターブックレット、No.40、pp.2-28、2019.3.

◆ 査読付き論文

香月秀仁・東達志・高原勇・谷口守：シェア型自動運転交通 “Shared-adus” 導入による駐車時空間削減効果、都市計画論文集、No.53-3、pp.544-550、2018.

森本瑛士・伊藤将希・谷口守：拠点間における都市機能の補完可能性、一公共交通の利便性に着目して一、都市計画論文集、No.53-3、pp.558-564、2018.

川崎薫・大橋瑞生・谷口守：人口減少予測にあらがうための基礎分析、一地方自治体の推計人口と実人口の乖離に着目して一、都市計画論文集、No.53-3、pp.1080-1086、2018.

東達志・香月秀仁・谷口守：都市構造の違いがシェア型自動運転車の運行効率に及ぼす影響、都市計画論文集、No.53-3、pp.551-557、2018.

高野裕作・谷口守：都市自治体による公共交通政策に関連した財政支出に関する研究、一全市区を対象としたアンケート調査の分析一、都市計画論文集、No.53-3、pp.1385-1392、2018.

M. Grant and M. Taniguchi : Board scheme concept, Prospect of providing tenure security solutions to squatter settlements in Jamaica, Journal of Engineering Technology, Vol.5, No.1, 2018.

森英高・川崎薫・谷口守：都市構造の変遷にみる退化性能の検討、一居住者のトリップに着目して一、土木学会論文集 D3、Vol.74, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.35)、pp. I_493-I_504、2018.

崔文竹・藤井達哉・横田尚己・谷口守：健康まちづくりの評価指標群開発に関する一考察、一公衆衛生分野との比較から一、土木学会論文集 D3、Vol.74, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.35)、pp. I_79-I_89、2018.

森本瑛士・越川知紘・谷口守：都市計画マスタープランにみる市町村間交通軸の整合性、一交通インフラの整備状況に着目して一、土木学会論文集 D3、Vol.74, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.35)、pp. I_879-I_887、2018.

香月秀仁・東達志・高原勇・谷口守：シェア型自動運転車による自動車利用変化、一空走時間発生による環境負荷への影響一、土木学会論文集 D3、Vol.74, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.35)、pp. I_889-I_896、2018.

越川知紘・森本瑛士・谷口守：多様化するコンパクトシティ政策がもたらすクロスセクターベネフィットの可能性、土木学会論文集 D3、Vol.74, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.35)、pp. I_419-I_429、2018.

川崎薫・片山茜・谷口守：農村部における ICT・IoT 活用が子育て世代の移住意識に及ぼす影響、－Society5.0 を見すえた新しい移住施策の検討－、土木学会論文集 D3、Vol.74、No.5（土木計画学研究・論文集、Vol.35）、pp. I_409-I_417、2018.

兪仕怡・三浦清洋・香月秀仁・谷口守：中国における自転車シェアリングの持続可能性に関する一考察、交通工学論文集（特集号）、Vol.5、No.1、p.20-29、2019.

藤井達哉・岡野圭吾・谷口守：大学の存在が人口の定着に及ぼす影響、－進学・就職・定員・充足の地方別分析から－、土木学会論文集 D3、Vol.75、No.1、pp.29-37、2019.

片山茜・川崎薫・谷口守：専門店街の抽出方法の提案とその実態、－全国的な分布と販売額の変化が示す課題－、土木学会論文集 D3、Vol.75、No.1、pp.38-46、2019.

東達志・香月秀仁・谷口守：シェア型自動運転車の運行効率の都市構造依存性、－都市形態及び都市機能集約度の観点から－、運輸政策研究、Vol.21、pp.27-38、2019.

◆ 国際会議

K. Azuma, H. Katsuki, and M. Taniguchi: Urban structure effects on shared mobility with automated driving “Shared-adus”, Urban Transitions 2018, Barcelona, Spain, 2018.11.

E. Morimoto, T. Koshikawa, and M. Taniguchi: Carbon reduction by compact urban layout? -Transition of automobile CO₂ emission over 28 years-, Urban Transitions 2018, Barcelona, Spain, 2018.11.

◆ 論説

谷口守：コンパクトシティ政策の動向と不動産ビジネスの転換、特集・コンパクトシティを考える、Evaluation、No.66、pp.17-23、2018.4.

谷口守・森本瑛士：広域的視点から見る新交通サービス導入の課題、交通サービスの革新と都市交通計画、公益社団法人日本交通政策研究会、日交研シリーズ A-718、pp.71-81、2018.5.

谷口守：道路とまちづくりの関係を考える、高速道路と自動車、Vol.61、No.6、pp.7-10、2018.6.

公益社団法人日本都市計画学会都市構造評価特別委員会：都市構造可視化ウェブサイトについて、新都市、Vol.30、No.7、pp.41-45、2018.7.

谷口守・香月秀仁・小嶋和法・東達志：気候変動に資する都市構造と自動車新技術を考える、オペレーションズ・リサーチ、Vol.63、No.7、pp.401-407、2018.7.

中川雅之・野村正史・西村清彦・谷口守・内田要：人口減少は住宅市場と都市をどう変えるのか、シンポジウム報告、都市住宅学 102 号、pp.76-87、2018. Summer

谷口守：駐車場がまちを変える、（巻頭言）、都市と交通、Vol.112、p.1、2018.10.

谷口守：スマートシティとコンパクトシティ、（特集）スマートシティとコンパクトシティ、都市計画学会誌、Vol.335、pp.14-17、2018.11.

◆ 学会発表等：

◆ 口頭発表

平間尚夏・森英高・谷口綾子・谷口守：活動格差社会克服に向けた「外出 MM」「活動 MM」の提案、一活動の実態・生活満足度に着目して一、都市計画報告 No.17、pp.150-157、2018.9.

森本瑛士・下山悠・岡野圭吾・谷口守：拠点間移動実態にみる都市サービス施設の補完ポテンシャル、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P140、pp.1-7、2018.11.

根本拓哉・森本瑛士・川崎薫・谷口守：P & W(Park & Walk)を前提とした自動車型小さな拠点の成立可能性、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P101、pp.1-6、2018.11.

横田尚己・谷口航太郎・大橋瑞生・谷口守：サイバー空間におけるインビジブルシティの見える化方策、一つぶやきに基づくリアルデータ駆動型試験から一、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P117、pp.1-6、2018.11.

崔文竹・御手洗陽・谷口綾子・谷口守：健康増進に向けた生活習慣の継続阻害要因に関する分析、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P103、pp.1-5、2018.11.

藤井達哉・一井啓介・谷口航太郎・谷口守：地方からの頭脳流出とその累積的影響一大学入試偏差値を用いた人口移動分析一、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P116、pp.1-6、2018.11. [優秀ポスター賞受賞]

川崎薫・片山茜・谷口守：何が人口減少予測を覆すのか、一推計人口と実人口の乖離に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P105、pp.1-6、2018.11.

東達志・香月秀仁・高原勇・谷口守：シェア型自動運転車の都市構造別運行効率、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P128、pp.1-6、2018.11. [優秀ポスター賞受賞]

片山茜・張雅婷・伊藤将希・谷口守：全国の専門店街の抽出とその計画上の位置づけに関する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P119、pp.1-6、2018.11.

川崎薫・横田尚己・山邊公輝・谷口守：「一つぶやき」による関係人口の定量化、一サイバー空間にみる地方移住へのステップアップ一、土木計画学研究・講演集、Vol.58、P201、pp.1-6、2018.11.

都築早織・川崎薫・谷口守：キーワード分析を通じた都市計画分野における研究対象地の時空間的変遷、都市計画報告、No.17、pp.301-308、2018.12.

その他：

受賞：土木学会優秀論文賞

指導学生受賞（崔文竹・片山茜：Honda Y-E-S Forum, Audience award／陳鶴：都市計画学会論文奨励賞／宗健：都市住宅学会論文賞／東達志：土木計画学研究発表会 優秀ポスター賞／藤井達哉：土木計画学研究発表会 優秀ポスター賞／越川知紘：土木学会優秀論文賞／藤井達哉：社会工学専攻長表彰／加藤博敏：社会工学専攻長表彰／藤井達哉：社会工学都市計画同窓会最優秀賞／岡野圭吾：理工学群長表彰／川崎薫：茗溪会賞／小松崎涼子：茨城県学生建築展 茨城県建築センター賞／清水宏樹：茨城県学生建築展 社会工学代表展示）

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻運営委員、社会工学類運営委員、学類1年生担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

◆ 学会活動（役員／委員）

交通計画協会 代表理事

日本モビリティ・マネジメント会議 理事

日本不動産学会 理事

日本都市計画学会 都市構造可視化特別委員会委員長

認定都市プランナー評価委員会 委員

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会 都市計画基本問題小委員会」臨時委員

国土交通省 「国土審議会 住み続けられる国土専門委員会」専門委員

国土交通省 「交通政策審議会（基本政策懇談会）」臨時委員

環境省 「中央環境審議会 総合政策部会 環境研究・技術開発推進戦略専門委員会」委員

内閣府 「i都市再生推進委員会」委員

総務省 「グリーンフィールドへのデータ活用型スマートシティ展開に求められる機能要件等に係る調査」（野村総合研究所委託）副座長

国土交通省 「都市構造の集約化による CO₂排出量の削減効果の評価手法意見交換会」（計量計画研究所委託）座長

国土交通省 「地域生活拠点の構築に関する検討会」座長

国土交通省 「河川技術評価委員会 流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員

国土交通省 「平成 30 年度交通関係環境保全優良事業者等 大臣表彰選考委員会」 委員

環境省 「CO₂排出削減対策技術評価委員会交通低炭素化技術開発分野分科会」 委員

環境省 「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金に係る補助事業者選定のための
審査委員会」 委員

環境省 「CO₂排出削減対策技術評価委員会交通低炭素化技術開発分野分科会」 委員

茨城県 「茨城県都市計画審議会」 副委員長

茨城県 「茨城県国土利用計画審議会」 委員

茨城県 「茨城県土地利用審査会」 委員

和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 会長

山梨県 「山梨県都市計画審議会 マスタープラン委員会」 専門委員

福岡県 「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」 委員

新潟市 「新潟市新バスシステム事業評価委員会」 委員長

静岡市 「静岡市立地適正化計画策定アドバイザー会議」 委員長

倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」 委員（議長）

古河市 「古河市都市計画マスタープラン改訂 及び古河市立地適正化計画策定
懇談会」 座長

石岡市 「石岡市都市計画審議会」 委員長

桜川市 「桜川市都市計画マスタープラン策定委員会」 委員

大磯町 「大磯町まちづくり審議会」 委員

境町 「境町都市計画マスタープラン改定及び境町立地適正化計画策定協議会」 座長

東京都市圏交通計画協議会 「東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会」 座長

都市再生機構 「独立行政法人都市再生機構 事業評価監視委員会」 委員

運輸総合研究所 「運輸部門における AI 等の活用に関する意見交換会」（三菱総合研究所委託）
委員

日本都市センター 「海外のモビリティ政策に関する調査に係るワーキング」 座長

日本みち研究所 「道路空間高度化研究会」 委員

公共交通利用推進等マネジメント協議会 「エコ通勤の啓発及びエコ通勤優良事業所認証制度
の普及・促進のための方策の検討」 委員

低炭素社会創出促進協会 「公共交通機関の低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業（低炭
素化に向けた LRT・BRT 導入利用促進事業）」 委員

公共交通利用推進等マネジメント協議会 「エコ通勤の啓発及びエコ通勤優良事業所認証制度
の普及・促進のための方策の検討」 委員

氏 名	張 勇兵	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
社会工学類：情報ネットワーク／情報リテラシー・演習／社工専門英語
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
社会工学類生：1 人
社会工学専攻博士後期課程：2 名
社会工学専攻博士前期課程：7 名
社会工学専攻研究生：5 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスティック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] K. Guo, M. Yang, Y. Zhang, and X. Jia: Efficient Resource Assignment in Mobile Edge Computing: A Dynamic Congestion-Aware Offloading Approach, *Elsevier J. Network and Computer Applications*, Vol. 134, pp. 40-51 (February 2019).
 - [2] M. Yang, Q. Wu, and Y. Zhang: Joint Assignment of Spatial Granularity Routing, Modulation, and Spectrum in SDM-EONs: Minimizing the Network CAPEX Considering Spectrum, WSS, and Laser Resources, *IEEE/OSA J. Lightwave Technology*, Vol. 36, No. 18, pp. 4153-4166, (September 2018).
 - [3] M. Yang, K. Guo, Y. Zhang, and Y. Ji: Routing, Modulation Level, Spectrum and Transceiver Assignment in Elastic Optical Networks, *IEICE Trans. Communications*, Vol. E101-B, No. 5, pp. 1197-1209, (May 2018).

- [4] K. Guo, M. Yang, and Y. Zhang: Computation Offloading over a Shared Communication Channel for Mobile Cloud Computing, *Proc. IEEE Wireless Communications and Networking Conference (WCNC2018)*, 6 pages, Barcelona, Spain (April 2018).

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
香港理工大学との国際交流協定責任者
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類コンピュータ委員、社会工学類運営委員、社会工学専攻コンピュータ委員、社会工学専攻運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 1) **Associate Editor** (2007～), *Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications*, Springer.
 - 2) **Program Committee**, [IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conference \(IWCMC2019\)](#), Tangier, Morocco, June 24-28, 2019.
 - 3) **Program Committee**, Distributed Green Computing and Energy Management Track, [IEEE International Conference on Distributed Computing Systems \(IEEE ICDCS2019\)](#), Dallas, Texas, July 7-10, 2019.
 - 4) **Program Committee**, Mobile and Wireless Network Computing Track, [IEEE International Conference on Distributed Computing Systems \(IEEE ICDCS2019\)](#), Dallas, Texas, July 7-10, 2019.

氏 名	堤 盛人	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻，サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	空間統計学，土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ 国土・地域・都市の政策評価 都市計画マスタープラン実習（共同）

大学院 地域科学（共同）・公共インフラ計画（共同）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

社会工学専攻 博士前期課程 2人 博士後期課程 1人

◆ 学生の受賞：

2018年5月 江端杏奈・吉田崇紘 第14回GISコミュニティフォーラム マップギャラリーアワード 第二位入賞

2018年10月 江端杏奈・吉田崇紘・爲季和樹・瀬谷創・堤盛人 第27回地理情報システム学会研究発表大会 ポスターセッション賞受賞

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『空間計量経済学における最重要課題への挑戦と新たな展開』

研究代表者 日本学術振興会学術研究助成基金助成金・挑戦的研究（萌芽）『組成データ解析の新たな展開』

研究代表者 国土交通省国土技術政策総合研究所（審議会等公募型） 受託研究 『地方自治体における道路維持管理業務のための道路構造物に関する情報の利活用方策』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究及び奨学寄付金『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 一般社団法人 三幸オフィス基金 奨学寄付金 『オフィス賃貸マーケットに関する研究』

研究分担者 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） 委託研究費 『戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究』（代表：石田 哲也）

◆ 著書・論文等：

査読付き論文：なし

◆ 学会発表等：

1) 江端杏奈・吉田崇紘・爲季和樹・瀬谷創・堤盛人：「ふるさと納税の探索的空間データ分析」, 『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 27 , C42. (第 27 回地理情報システム学会研究発表大会, 首都大学東京 南大沢キャンパス, 10 月 19 日～21 日, 2018.)

2) Anna Ebata and Morito Tsutsumi, “A Spatial Analysis of Industrial Concentration in Japan Using Compositional Data: An Application of Geographically Weighted Spatial Statistics”, XII World Conference of the Spatial Econometrics Association (SEA), Vienna, June 11-12, 2018.

3) Rim Er-Rbib and Morito Tsutsumi, “Application of exploratory spatial analysis to the population concentrations in France based on immigration status and other characteristics”, XII World Conference of the Spatial Econometrics Association (SEA), Vienna, June 11-12, 2018.

◆ その他：

1) 日刊建設産業新聞, 平成 31 年 1 月 1 日火曜日 (第 18170 号), 5 面

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：特になし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻：カリキュラム委員会委員長・論文委員会委員

社会工学類：2 年生担任・社工 SFT 対応 WG メンバー

◆ 日越大学公共政策プロジェクト運営委委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員, 論文査読等）

1) 一般社団法人日本写真測量学会 評議員

2) 日本不動産金融工学学会 評議員

3) 応用地域学会 論文編集委員・同委員長

4) 査読委員/査読者：Asia-Pacific Journal of Regional Science, 応用地域学研究, 土木計画学研究・論文集 Vol.35, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 土木学会論文集 F4 (建設マネジメント), 日本不動産学会誌

◆ 社会的活動

1) 総務省 『政策評価審議会』 専門委員

2) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員

- 3) 国土地理院 『平成 30 年度測量士・測量士補試験考査委員会』 委員
- 4) 国土交通省 『地域道路経済戦略検討会』 委員
- 5) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員
- 6) 公益社団法人日本測量協会 『地理空間情報専門技術委員会』 委員
- ◆ その他兼業
株式会社タス 非常勤顧問

氏 名	フندوقク トウアン	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率過程，計算機・通信・サービスシステムのモデル化と性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 応用確率過程（秋）
 - プログラミング実習（秋）
 - 計算機科学（分担，秋）
 - 社会工学のための数学（分担，春）
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人
 - 社会工学専攻 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ※ 各種研究プロジェクト、競争的外部資金獲得状況（研究代表者・研究分担者を明記）、共同研究・受託研究（研究代表者・研究分担者を明記）を含む

2018年4月～2021年3月：研究課題番号：18K18006 学術振興会・若手研究，研究課題「処理能力可変型待ち行列システムの理論的深化と省エネデータセンターへの応用」代表

研究課題番号：15H02966 学術振興会 基盤研究(B) 研究課題「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（代表：吉瀬章子）研究分担者

<編集国際会議の会議録>

Takahashi, Y., Phung-Duc, T, Wittevrongel, S. and Yue, W., Eds., Selected Papers of The 13th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2018), Tsukuba, Japan, 25-27 July 2018, Lecture Notes in Computer Science, LNCS 10932, 2018.

<査読付き学術論文誌に掲載論文>

Walraevens, J., Claeys, D. and Phung-Duc, T., “Asymptotics of Queue Length Distributions in Priority Retrial Queues,” *Performance Evaluation*, Vol. 127-128, pp. 235-252, 2018.

Yajima, M. and Phung-Duc, T., “A Central Limit Theorem for a Markov-Modulated Infinite-Server Queue with Batch Poisson Arrivals and Binomial Catastrophes,” *Performance Evaluation*, Vol. 129, pp. 2-14, 2019.

Nazarov, A., Phung-Duc, T. and Paul, S., “Slow Retrial Asymptotics for a Single Server Queue with Two-Way Communication and Markov Modulated Poisson Input,” *Journal of Systems Science and Systems Engineering*, Vol. 28, No. 2, pp. 181-193, 2019.

Devos, A., Walraevens, J., Phung-Duc, T. and Bruneel, H., “Analysis of the Queue Lengths in a Priority Retrial Queue with Constant Retrial Policy,” to appear in *Journal of Industrial and Management Optimization*, 2019.

<査読付き国際会議論文>

Morozov, E. and Phung-Duc, T., “Regenerative analysis of two-way communication orbit-queue with general service time,” *Lecture Notes in Computer Science*, Vol. 10932, pp. 22--32, 2018.

Paul, S. and Phung-Duc, T., “Retrial Queueing Model with Two-Way Communication, Unreliable Server and Resume of Interrupted Call for Cognitive Radio Networks,” In Dudin A., Nazarov A., Moiseev A. (Eds.) *Information Technologies and Mathematical Modelling. Queueing Theory and Applications, ITMM 2018, Communications in Computer and Information Science*, Vol. 912, pp. 213-224, Springer, Cham.

Nazarov, A., Phung-Duc, T. and Paul, S. (2018), “Unreliable Single-Server Queue with Two-Way Communication and Retrials of Blocked and Interrupted Calls for Cognitive Radio Networks,” In Vishnevskiy, V. M., Kozyrev, D. V. (Eds.) *Distributed Computer and Communication Networks, DCCN 2018, Communications in Computer and Information Science*, Vol. 919, pp. 276-287, Springer, Cham.

Dragieva, V. and Phung-Duc, “An M/G/1//K retrial queue with outgoing calls,” Proceedings of the 13th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2018), pp. 9--13, Tsukuba, Japan, July 25-27, 2018.

Phung-Duc, T. and Kawanishi, K., “Delay Performance of Data Center Queue with Staggered Setup Policy and Abandonment,” Proceedings of the 13th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2018), pp. 34--38, Tsukuba, Japan, July 25-27, 2018.

Hideyama, S. and Phung-Duc, T., “Queueing Model for Data Center with Server-Block Setup Time,” Proceedings of the 13th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2018), pp. 39--43, Tsukuba, Japan, July 25-27, 2018.

Yajima, M. and Phung-Duc, T., “A Scaling Limit for Markov-modulated MX/M/ ∞ Queue with Binomial Catastrophes,” Proceedings of the 13th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2018), pp. 88--92, Tsukuba, Japan, July 25-27, 2018.

Ren, Y., Phung-Duc, T., Liu, Y.-K., Chen, J.-C. and Lin, Y.-H., “ASA: Adaptive VNF Scaling Algorithm for 5G Mobile Networks,” Proceedings of IEEE International Conference on Cloud Networking (IEEE CloudNet2018), Tokyo, Japan, October 22-24, 2018. [DOI: 10.1109/CloudNet.2018.8549542]

Yajima, M. and Phung-Duc, T., “A Central Limit Theorem for a Markov-Modulated Infinite-Server Queue with Batch Poisson Arrivals and Binomial Catastrophes,” Proceedings of The 36th International Symposium on Computer Performance, Modeling, Measurements and Evaluation (IFIP Performance), Toulouse, France, December 5-7, 2018. ACM SIGMETRICS Performance Evaluation Review, 46(3):33-34, 2019.

◆ 解説論文等

牛垣 龍一, フンドック トゥアン, 河西 憲一, Yuan-Cheng Lai, Ying-Dar Lin, フロー到着とクロストラフィックを考慮した SDN の待ち行列モデルとその解析, オペレーションズ・リサーチ, Vol.63, No. 8, pp. 480-486, 2018. 招待論文

矢島 萌子, フンドック トゥアン, 増山 博之, 集団到着型無限サーバ待ち行列の安定性, Vol.63, No. 8, pp. 467-473, 2018. 招待論文

◆ 学会発表等：

日出山慎人, Phung-Duc Tuan, 岡田幸彦：“待ち行列理論を用いた宅配ボックスサービスのモデル化,” 日本経営工学会 2018 年秋季大会, pp. 10-12, 2018 年 10 月 27-28 日. (Best Presentation Award 受賞)

日出山慎人, Phung-Duc Tuan, 岡田幸彦：“待ち行列モデルを用いた宅配ボックスサービスの性能解析,” 第 35 回 (2018 年度) 待ち行列シンポジウム, pp. 71-80, 2019 年 1 月 23-25 日.

巻野 侑大, Phung-Duc Tuan: 乗車時間を考慮したタクシー待ち行列モデルの解析, 第 35 回 (2018 年度) 待ち行列シンポジウム, pp. 48-49, 2019 年 1 月 23-25 日.

阿久津 康平, Phung-Duc Tuan: 再試行型待ち行列を用いた単一チャネルコグニティブ無線の解析, 第 35 回 (2018 年度) 待ち行列シンポジウム, pp. 99-108, 2019 年 1 月 23-25 日.

◆ その他

受賞：

2019-02	Best Faculty Member
2018-11	筑波大学若手教員奨励賞
2018-04	システム情報系教育貢献賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院入試委員
大学院カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ◆ 各種活動

学術論文誌の編集員

Editor of KSII Transactions on Internet and Information Systems (Korean Society for Internet Information) from January 2013 ~ present

Editor of Journal of Platform Technology (ICT Platform Society) from November 2013 ~ present

Editorial Board of International Journal of Applied & Experimental Mathematics (IJAEM) from December 2015 ~ present

Guest Editor of Special Issue of Annals of Operations Research on Queueing Theory and Network Applications, from October 2016 ~ present

Associate Editor of Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017 ~ present

Editorial Board of The Open Statistics and Probability Journal from December 2017 ~ present

国際会議の委員長等

Technical Programme Co-Chair of First International Workshop Stochastic Modeling and Applied Research of Technology (SMARTY' 18), September 21-25, 2018, Petrozavodsk, Russia.

Co-Chair of Technical Program Committee and Co-Chair of Local Organizing Committee of the 13th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2018), Tsukuba, Ibaraki, Japan, July 25-27, 2018.

Co-Chair of Technical Program Committee the 14th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2019), Ghent, Belgium, August 27-29, 2019.

国際会議の委員等

Technical Program Committee of 3rd EAI International Conference on Smart Grid and Innovative Frontiers in Telecommunications (SmartGIFT), SmartGift 2018, Auckland, New Zealand, 23-25 April, 2018. [Website]

Technical Program Committee of 2018 IEEE Wireless Communications and Networking Conference (WCNC), Barcelona, Spain, 15-18 April, 2018. [Website]

International Program Committee of 12th International Workshop on Retrial Queues and Related Topics WRQ 2018, Tomsk, Russia, 10-15, September, 2018. [Website]

Technical Programme Committee Member of The 13th IEEE-RIVF International Conference on Computing and Communication Technologies, Danang, Vietnam, 20--22 March, 2019.

Technical Programme Committee Member of 12th EAI International Conference on Performance Evaluation Methodologies and Tools, Palma de Mallorca, Spain, March 13-15, 2019.

国内学会・研究集会の委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会 庶務幹事

第 35 回（2018 年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

社会貢献

特になし

氏 名	八森 正泰	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 情報リテラシー・演習／数理解析／情報技術実験／社会工学特設講義（LaTeX 入門）
／囲碁で培う思考力

大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 4 人

社会工学専攻（前期課程） 1 人

社会工学専攻（後期課程） 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（B）「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」（分担、代表：繁野麻衣子）

基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（分担、代表：吉瀬章子）
- ◆ 著書・論文等：

Masahiro Hachimori, Optimization problems on acyclic orientations of graphs, shellability of simplicial complexes, and acyclic partitions, in S.K.Neogy, R.B.Bapat, D. Dubey eds., ``Mathematical Programming and Game Theory'', Springer-Verlag, 2019, 49-66.

Hikoe Enomoto, Masahiro Hachimori, Shun Nakamura, Maiko Shigeno, Yuya Tanaka and Masaaki Tsugami, Pure-strategy Nash equilibria on competitive diffusion games, Discrete Applied Mathematics 244 (2018), 1-19.
- ◆ 学会発表等：

日本数学会 2019 年度年会，東京工業大学，2019 年 3 月 17-20 日，「グラフの向き付けと出次数に関する最適化問題」

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学学群教職課程委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 コンピュータ委員、カリキュラム委員
大学院 論文委員、コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Graphs and Combinatorics 誌 Managing Editor
日本数学会応用数学分科会委員
応用数学合同研究集会（日本数学会応用数学分科会主催，応用数理学会，龍谷大学理工学部協賛）世話人
組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事
国際会議 Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA2018) 実施委員
JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏 名	原田 信行	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 統計Ⅰ／金融論

大学院 企業評価論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人

社会工学専攻（前期） 2人

社会工学専攻（後期） 1人

2. 研究

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 カリキュラム委員会委員

社会工学類 卒業生連絡委員会委員

社会工学類 SF ターム検討ワーキンググループ委員

氏 名	藤井さやか	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任 環境科学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市計画、住環境整備、まちづくり法制		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 総合科目都市・地域・環境を語るⅠ・Ⅱ・Ⅲ／土地利用・地区整備計画／
現代まちづくりの理論と実践／住環境計画実習／都市計画事例講義及び実習／
設計演習Ⅰ・Ⅱ

大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学
ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ（国際交流ワークショップA・B／
まちづくりワークショップファシリテーター研修）

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／ 社会工学専攻 11人／ 研究生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 平成30年度科学研究費・基盤研究（B）「社会的包摂プログラムを組み込んだ外国人集住地区再生手法の実態と日本への適用」研究代表者
- 平成30年度科学研究費・挑戦的研究（萌芽）「高齢者・障がい者・子どもが互いに支え合う複合地域拠点モデルの提案」研究代表者
- 平成30年度科学研究費・基盤研究（C）「景観・市街地環境の保全・形成手法としての絶対高さ制限の評価に関する研究」研究分担者（研究代表者・大澤昭彦）
- 平成30年度科学研究費・基盤研究（A）「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」研究分担者（研究代表者・逢坂卓郎）
- 2018年度共同研究 独立行政法人都市再生機構「震災復興のための地域資源利活用方策に関する研究」研究代表者
- （公財）建築技術教育普及センター奨学寄附金「高齢化する経年郊外戸建て住宅地における建築協定の認知度と発展的解消に関する研究」研究代表者
- 2018年度UDCTak（アーバンデザインセンター高島平）奨学寄附金「花壇活動を通じた「居場所」づくりとネットワーク形成」研究代表者
- 2018年度受託研究 結城市「結城市伝統的建造物群保存対策調査研究」研究分担者

(研究代表者 藤川昌樹)

- 2018 年度筑波大学・社会工学コモンズ・データバンクプロジェクト「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」研究代表者

◆ 著書・論文等：

- 山口航平，藤井さやか： 大型商業施設の撤退がニュータウン中心部の賑わいに及ぼす影響に関する研究：つくばセンター地区を対象に，都市計画報告集，17 巻，pp.366-374，2019-02.
- 藤井さやか，王爽： 住宅団地における多文化コミュニティ形成に向けた取り組み-外国人集住が進む住宅団地事例から-，都市計画 336，pp.64-67，2019-01.
- 温井達也，王尾和寿，渡和由，藤井さやか，花里俊廣： 地域特性と区会規約の関連性に関する考察，環境情報科学論文集 32，pp.233-238，2018-12.
- 藤井さやか： 住民主体のまちづくりと都市計画関連制度・ルール，都市史学会編『日本都市史・建築史事典』，pp.464-465，丸善出版，2018-07.

◆ 学会発表等：

- Sayaka FUJII: A Study on the Community Hub for Mothers in a Small Provincial City, Proceedings of the 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.1294-1298. 2018-10-25.
- Shuang Wang, Sayaka FUJII: A Study on the Distribution and Characteristics of the Public Housing Densely Inhabited by Foreigners in Japan, Proceedings of the 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.235-240. 2018-10-24.
- Sayaka FUJII: Revitalization of Aging Communities in the Tokyo Metropolitan Suburb, Perspectives in Metropolitan Research Workshop (1), Ruhr University Bochum Japan Science Days 2018, 2018/7/6. Ruhr University Bochum, Germany.

◆ その他：

- パネリスト，「ラウンドテーブル：振り返りとまとめ」大方潤一郎教授定年記念連続セミナー延長戦，2019 年 3 月 11 日，東京大学工学部 14 号館 141.
- 報告者，「トロント市リージェント・パーク団地再生事業の取り組みから」シンポジウム「外国人居住と住宅・コミュニティ問題」，日本建築学会関東支部住宅問題専門研究委員会，2019 年 3 月 7 日，日本大学理工学部 1 号館.
- モデレーター，シンポジウム「外国人居住と住宅・コミュニティ問題」，日本建築学会関東支部住宅問題専門研究委員会，2019 年 3 月 7 日，日本大学理工学部 1 号館.
- パネリスト，「都市・地域空間の共創的マネジメント手法(2)」大方潤一郎教授定年記念連続セミナー第 6 回，2019 年 1 月 21 日，東京大学工学部 11 号館講堂.
- パネリスト，「スポンジ化する郊外の熟成を考える：スポンジ化を活かす様々なビジョンと方法」大方潤一郎教授定年記念連続セミナー第 3 回，2018 年 12 月 3 日，東京

大学工学部 14 号館 141.

- 報告、「田園都市—TOD 型アーバンビレジの夢と現実」大方潤一郎教授定年記念連続セミナー第 1 回。2018 年 11 月 12 日。東京大学工学部 11 号館講堂。

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 外国語センター学類代表
 - 研究科企画室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 専攻：カリキュラム委員会委員、予算委員会委員
 - 学類：予算委員会委員／SF ターム検討 WG 委員／建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 日本不動産学会事業企画委員会 委員
 - 日本都市計画学会 都市計画法 50 年・100 年企画特別委員会 委員
 - 日本建築学会創造的地域文脈小委員会筑波研究学園都市 WG 委員
- ◆ 学術指導・講師等：
 - 講演・コーディネーター。柏ビレジまちづくりワークショップ「だれもが住みやすいまちの実現を目指して」。2019 年 3 月 10 日。柏ビレジ自治会館。
 - 講演。「武蔵小杉エリアの公開空地の適切な維持管理・利活用に向けて」公開空地研究会。2019 年 2 月 27 日。川崎市中原区役所。
 - 招待講演。「すみたくなるまちなかづくり」第 2 回沼津の住まいを考えるシンポジウム。2019 年 2 月 25 日。プラザヴェルデ。
 - 講演・コーディネーター。柏ビレジまちづくりシンポジウム「これからのまちづくりを考える—住民向けアンケート結果と今後—」。2018 年 12 月 2 日。柏ビレジ自治会館。
 - モデレーター。「つくば市まちづくりヴィジョンシンポジウム」。2018 年 5 月 20 日。つくばイノベーションプラザ。
- ◆ 高大連携活動：
 - 発表会講評 2018 年高大連携ワークショップ最終発表会 2018 年 7 月 27 日 常総市役所。
- ◆ 学外委員：
 - 内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員
 - 国土交通省総プロ「成熟社会に対応した郊外住宅市街地の再生技術の開発」技術開発検討会委員
 - 国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員

- 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員
- 茨城県リサイクル認定製品審査会委員
- 埼玉県景観審議会委員
- 埼玉県大規模小売店舗審議会委員
- 柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員
- 長野県都市計画審議会委員
- つくば市図書館懇話会委員
- つくば市大規模事業評価委員会委員
- つくば市クレオの再生に向けた有識者ヒアリング
- つくばセンタービルリノベーションに向けたあり方検討業務審査委員会委員
- 石岡市景観調査委員会委員
- 下妻市庁舎建設検討市民会議副委員長
- 結城市伝統的建造物群保存対策調査委員会委員
- かすみがうら市空家等対策協議会委員
- 墨田区都市計画審議会委員
- 墨田区建築審査会委員
- 墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員
- 墨田区都市計画マスタープラン策定委員会委員
- 板橋区都市計画審議会委員
- 板橋区老朽建築物等対策協議会委員
- アーバンデザインセンター高島平 専門アドバイザー
- 柏市紛争調停委員会委員
- 浦安市平成 30 年度地域地区検討調査業務 委員
- 市川市都市計画審議会委員
- 八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長

氏 名	藤川 昌樹	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻（専任）、生命環境科学研究科持続環境学専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻社会工学学位プログラム（専任）、地域未来創生教育コース・コースリーダー、生命環境科学研究科持続環境学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学 類 都市計画の歴史／都市・地域・環境を探る／住環境計画実習／設計演習 II
大学院 都市形成史（環境計画史）/社会工学 WS I・II

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人
社会工学専攻 18 人
社会工学専攻研究生 5 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・科学研究費・基盤研究（B）「江戸武家地の成熟過程に関する建築史・都市史的研究」（代表）
- ・石岡市「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」（代表）
- ・結城市「結城市伝統的建造物群保存対策調査研究」（代表）
- ・トヨタ「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

- ・劉一辰・藤川昌樹「茨城県桜川市真壁町における駐車場の出現パターン」（『日本建築学会計画系論文集』748、pp.1,067-1,077、2018 年 6 月）
- ・藤川昌樹・山本幸子・仲村健「近・現代の農村地域における拠点集落と拠点間交通：茨城県石岡市八郷地域を事例として」（『オペレーションズ・リサーチ』63-7、pp.394-400、2018 年 7 月）
- ・Yichen LIU and Masaki FUJIKAWA 'CHINESE PARTICIPATION IN THE DEVELOPMENT OF BRITISH CONCESSION IN TIANJIN, CHINA' Journal of Architecture and Planning, 754, pp.2,465-2,474, 2018 年 12 月

◆ 学会発表等：

- ・李雪・藤川昌樹・劉一辰「奈良県橿原市今井町における駐車場の実態－重要伝統的建造物群保存地区における駐車空間に関する研究－」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp.157-158、2018年9月
- ・大井菜摘・藤川昌樹「歴史的市街地における「まつり」の運営方法と空間利用－茨城県結城市を事例として－」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp.161-162、2018年9月
- ・梁美恵・藤川昌樹「近代秩父における産業の展開と都市形成」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp.1,119-1,120、2018年9月
- ・余思奇・藤川昌樹「乾隆 51 年五台山鎮海寺章嘉呼圖克圖靈塔の建立」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.53-54、2018年9月
- ・徐暢・藤川昌樹「「建築工事档案」からみた中国青島市における近代集合住宅の類」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.61-62、2018年9月
- ・秋葉正美・藤川昌樹「明治 35 年の真壁町の住居における付属屋について－「家屋台帳」による検討(その3)－」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.125-126、2018年9月
- ・宋宇辰・藤川昌樹「水西酒店の建築的特徴：石岡市における看板建築に関する基礎的研究その5」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.597-598、2018年9月

◆ 講演ほか：

- ・”Traditional Built Environment and Its Conservation in Japan”(FUJIKAWA Masaki, 未来社会工学センターWS、IHS 大会議室) 2018年4月24日
- ・「過去から未来を見る：まちづくりにとって歴史とは何か？」(藤川昌樹、つくばみらい市・筑波大学高大連携プロジェクト 2018、筑波大学) 2018年8月2日
- ・「木崎邸の建築について」(藤川昌樹、「実測学校：八郷 かやぶき屋根の民家」、石岡市上青柳・木崎邸) 2018年8月25日
- ・「真壁のまちづくり」(藤川昌樹、NPO 木の建築フォーラム：伝統木造の保存・活用講座、真壁伝承館) 2018年10月20日
- ・「地域の歴史的資源を活かしたまちづくり：石岡を事例として」(藤川昌樹、「ザ・プレゼンテーション」、筑波大学中央図書館ラーニング・スクウェア) 2018年11月12日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・特になし

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ 社会工学専攻／社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - ・ 建築史学会編集委員長・常任委員
 - ・ 日本建築学会災害本委員会委員・技術報告集委員
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - ・ 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
 - ・ 茨城県まちづくりアドバイザー
 - ・ 史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
 - ・ 桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
 - ・ つくば市都市景観審議会委員
 - ・ 土浦市都市計画審議会会長
 - ・ 桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
 - ・ 茨城県景観審議会委員
 - ・ 土浦市文化財保護審議会委員
 - ・ つくば市文化財保護審議会会長
 - ・ 笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
 - ・ 石岡市景観調査委員会委員長
 - ・ 下妻市庁舎建設検討市民会議座長
 - ・ 科学研究費委員会専門委員
 - ・ 茨城県文化財保護審議会委員
 - ・ 結城市景観審議会委員・景観アドバイザー
 - ・ 文化庁文化審議会文化財分科会第二専門調査会委員
 - ・ 結城市伝統的建造物群保存対策調査委員会委員長

氏 名	松原 康介	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	国際総合学類 社会工学類（兼任）		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/

大学院：都市形成史/

◆ 指導学生数：

国際総合学類 8/社会工学類 2/社会工学学位 P（前期）11/社会工学学位 P（後期）2

2. 研究

◆ 著書・論文等：

松原康介（編著）『地中海を旅する 62 章 歴史と文化の都市探訪』明石書店、2019 年 2 月、400 頁

松原康介「戦後仏語圏における「最大多数のための住まい」から「進化型住宅」への展開 -ATBAT（建造者アトリエ）の国際・地域交流活動の歴史的経緯に関する研究 その 2-」日本建築学会計画系論文集、2019 年 6 月、84(760)号、1473-1483 頁

Kosuke Matsubara, “Genealogy of Haussmannization in Aleppo: A case study of the overseas deployment of French urbanism”, *Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 2: Tehran, Aleppo, Istanbul, and Beirut*, 4, pp.183-198, 2018-06.

松原康介「アルジェ・植民都市計画の変遷 -モダニズムの地域性-」都市史研究、2018 年 11 月、5 号、55-65 頁

◆ その他：

松原康介「計画研究 06 西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究 2018 年度活動報告」山田重郎（編）『都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究』文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）研究成果報告 2018 年度、2019 年 4 月、191-227 頁

レバノンとシリア、戦災と復興の連環」映画『セメントの記憶』公式パンフレット、2019 年 3 月、20-21 頁

松原康介「アレッポの旧市街、スークの未来」イブラ・ワ・ハイト+清泉女子大学共同企画勉強会、招待講演、東京理科大学、2019-01-18

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 国際総合学類 入試実施委員
 - 地中海・北アフリカ研究センター 兼任准教授
 - 筑波大学北アフリカ研究センター 運営委員
 - 筑波大学ボルドー事務所 運営委員
 - 筑波大学タシケント事務所 運営委員
 - 筑波大学アルマトイ事務所 運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering), Field Editor (Urban Planning)
 - 日本建築学会 図書委員会・文献抄録小委員会・第5部会（都市計画）委員
 - 日本都市計画学会 国際委員
 - 日仏東洋学会 広報担当幹事

氏 名	三崎 広海	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 協力		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計学、計量経済学、計量ファイナンス、大規模データ解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 計量時系列分析／国際・公共システム演習

大学院 金融リスク解析／リスク工学専攻演習／リスクマネジメント序論／リスク工学基礎（主担当）
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

リスク工学専攻 3人／社会工学専攻 6人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

高頻度金融時系列データ解析のための統計的手法の開発と実証分析
- ◆ 著書・論文等：

[1] Misaki, H., “Practical Application of the SIML Estimation of Covariance, Correlation, and Hedging Ratio with High-Frequency Financial Data,” In: Czarnowski I., Howlett R., Jain L. (eds.) Intelligent Decision Technologies 2019 (KES-IDT 2019), Smart Innovation, Systems and Technologies, Springer, Cham, *forthcoming*.
- ◆ 学会発表等：

[1] Misaki, H., “An Empirical Analysis of Volatility by the SIML Estimation with High-Frequency Trades and Quotes,” Smart Innovation, Systems and Technologies 2018, Gold Coast, Australia, June 2018.

[2] Misaki, H., “Comparison of Financial Volatility Estimators: RK, TS, PA and SIML,” International Symposium on Statistical Theory and Methodology for Large Complex Data, Univ. of Tsukuba, November 2018.（招待講演）

[3] Misaki, H., “On the Error of Realized Measures of Volatility in Finance,” International Conference on “Data Science, Time Series Modeling and Applications” (ICMMA 2018), Meiji Univ., Japan, February 2019.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 学生担当教員会議（代理）
理工学群 ESCAT・寺子屋塾実行委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻 広報委員／「リスク工学専攻演習」担当／表彰専攻委員／「リスク工学基礎」主担当／「リスクマネジメント序論」担当／入試委員／就職委員／大塚キャンパス対策委員／達成度評価アクション委員
社会工学類 学生担当委員／3年クラス担任

氏 名	繆 瑩	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学		
専攻（博士前期課程）	社会工学		
担当学類	社会工学		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信・蓄積、グループ検査		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：線形代数 II/情報ネットワーク/シミュレーション/社工専門英語
大学院：電子商取引
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人/社会工学専攻（前期）0 人/社会工学専攻（後期）4 人/研究生 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤研究（B）「スーパースな結合行列を持つ組合せ的構造の分析と構成」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
Y. Miao, Strongly separable matrices, Conference on Combinatorics and its Applications, July 14-16, 2018, Nanyang Technological University, Singapore.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類：入試実施委員
大学院：留学生支援委員/学生相談室委員
域：経営工学人事世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.
Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present.
Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present.

Editor: Bulletin of the Institute of Combinatorics and its Applications, January 2017 - present.

Organizing committee member, The Japanese Conference on Combinatorics and its Applications, Sendai, May 20-24, 2018.

氏 名	村上 暁信	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	緑地計画，ランドスケープ・デザイン，都市農村計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市緑地計画，都市計画マスタープラン策定実習，社会工学実習，都市環境評価論，現代まちづくりの理論と実践

大学院 Landscape Planning，ランドスケープ・デザイン・スタジオ，Society 5.0による八郷未来プロジェクト3

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学専攻 4人（前期課程）／社会工学専攻 2人（博士後期）／環境科学専攻 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「量から質へのシフトを実現するための緑地の計画制度・設計手法・運用方法の研究」（代表）

科学研究費 挑戦的萌芽研究「津波で失われた景観のデジタル再現と記憶の分析によるコミュニティが共有する場の解析」（代表）

委託事業 宮城県岩沼市「津波被災前の景観再現モデルを活用したVRシステム等作成業務」（代表）

受託研究 YKK AP株式会社「YKKパッシブタウン黒部モデルのランドスケープ評価に関する研究」（代表）

学術指導 東海村「東海村「神楽沢近隣公園整備計画」の策定検討に向けた現況の調査及び設計に関する学術指導」（代表）

奨学寄附金 旭硝子財団「都市化によるライフスタイル・住民構成の変化を踏まえた環境的・社会的に快適な住空間の創出」（代表）

◆ 著書・論文等：

Park, C. Y., Lee, D. K., Asawa, T., Murakami, A., Kim, H. G., Lee, M. K., Lee, H. S. : Influence of urban form on the cooling effect of a small urban river. Landscape and Urban Planning, ELSEVIER, 183, 26-35, 2019（査読あり）

Park, C. Y., Lee, D. K., Krayenhoff, E. S., Heo, H. K., Ahn, S., Asawa, T., Murakami, A., Kim, H. G. : A multilayer mean radiant temperature model for pedestrians in a street canyon with trees. Building and Environment, Elsevier, 141, 298-309, 2018 (査読あり)

植田直樹, 瀬島由実加, 村上暁信 : 緑化に関する条例等における規定の構成要素とその時代変化に関する研究, 都市計画論文集, 53(3), 1297-1304, 2018 (査読あり)

村上暁信, 饗庭伸, 池田浩敬, 木村周平, 熊倉永子 : 昭和三陸津波後に高台移転した地域における東日本大震災後の復興:津波被災前の 3D デジタルモデルを用いた分析. 住総研究論文集・実践研究報告集, 44, 121-132, 2018 (査読あり)

Hara, Y., Ohsugi, T., Tsuchiya, K., Murakami, A., Palijon, A. M. : Post-disaster recovery linked with pre-disaster land development and damage density of Typhoon Yolanda: Toward better land-use planning in Tacloban City, the Philippines. Journal of Environmental Information Science, 2017(2), 1-12, 2018 (査読あり)

村上暁信 : 縮退する都市郊外における地域制緑地制度の活用と課題 (特集 地域制緑地の役割と管理のあり方). グリーン・エージ 45(3), 4-7, 2018

竹本和彦, 鎌形浩史, 大塚直, 加藤和弘, 村上暁信 : 持続可能な社会づくりに向けた環境政策と環境研究の連携. 環境情報科学, 47(1), 57-68, 2018

中島遥希, 村上暁信 : 周辺環境が保水性舗装の夏季気候緩和効果に与える影響. 環境情報科学, 47(1), 95, 2018

斉藤真里佳, 村上暁信 : 津波で失われた町並みの 3 次元再現モデルを用いた景観認識・記憶に関する研究. 環境情報科学, 47(1), 98, 2018

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
全学学群教育課程委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会工学類カリキュラム委員長, 社会工学類将来設計WGメンバー,

4. 学外の社会貢献

- ◆ 政府・地方自治体・独立行政法人等の座長・会長・委員 :
日本学術会議連携会員
守谷市都市計画審議会委員
東京都港区緑と水の委員会委員
横浜市エキサイトよこはま 22 環境検討部会委員
三鷹市景観審議会委員
山梨県都市計画マスタープラン委員会委員
- ◆ 学会活動 :

日本造園学会学術委員会委員

日本都市計画学会国際委員会委員

環境情報科学センター理事

農村計画学会評議員

氏 名	吉瀬 章子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	数理最適化，オペレーションズ・リサーチ，サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計 23 名
 - システム情報工学研究科
 - 社会工学専攻・社会工学学位プログラム 5 名
 - 社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 12 名
 - 理工学群社会工学類 6 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：数理最適化の理論と応用に関する研究を行った。理論に関しては錐最適化問題に対するアルゴリズムの開発とその検証，応用に関しては，数理最適化を用いたモビリティ・イノベーションあるいはサービス・イノベーションにおける事業分析などに取り組んだ。
- ◆ 科学研究費 挑戦的研究（萌芽）「半正定値基を用いた錐最適化問題の近似解法の開発」（代表）
 - 科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（代表）
 - 社会連携講座「地域未来地域未来創生共同研究講座」（代表）
 - 共同研究（トヨタ自動車株式会社）「次世代社会システムとモビリティの新価値研究」（分担）
 - 科学研究費 基盤研究（B）「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」（分担）
 - 科学研究費 基盤研究（B）「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」（分担）
 - 科学研究費 基盤研究（C）「実用的な微分フリー最適化アルゴリズムの開発」（分担）
- ◆ 著書・論文等：
 - ☆ Yasutaka Miyagawa, Yosuke Watanabe, Maiko Shigeno, Kiyo Ishii, Atsuko Takehisa and Akiko Yoshise, “Bounds for two static optimization problems on routing and spectrum

allocation of anycasting,” Optical Switching and Networking 31(2018)pp. 144-161, DOI: 10.1016/j.osn.2018.10.008, 査読有.

- ✧ 山田匡規,, 木村雅志, 高橋直希, 吉瀬章子, 「ラストマイル・モビリティシェアリング -最適化モデルによる運用分析-」, オペレーションズ・リサーチ 63(2018)pp.386-393. 査読無.
- ✧ Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise. “LP-based tractable subcones of the semidefinite plus nonnegative cone,” Annals of Operations Research 265(2018) pp.155-182, DOI: 10.1007/s10479-017-2720-z, 査読有.

◆ 学会発表等：

- ✧ Yuzhu Wang, Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, “ Polyhedral approximations of the semidefinite cone and their applications,” The Sixth Asian Conference on Nonlinear Analysis and Optimization, Okinawa, Japan, November 5-9, 2018. 招待講演.
- ✧ 青木佑真, 石井紀代, 工藤知宏, 繁野麻衣子, 竹房あつ子, 吉瀬章子, 「多様なサービスを柔軟に提供する光伝送網設計の一手法」, スケジューリングシンポジウム 2018, 北海道, 日本, 2018 年 9 月 20 日～21 日.
- ✧ 大原敬之, 近藤大祐, 廣田雄介, 吉瀬章子, 「ガソリンスタンドにおける従業員勤務スケジュールの最適化」, スケジューリングシンポジウム 2018, 北海道, 日本, 2018 年 9 月 20 日～21 日.
- ✧ 川瀬康平, 青井紀之, 吉瀬章子, 「引越しの配送における運搬車数の最小化」, スケジューリングシンポジウム 2018, 北海道, 日本, 2018 年 9 月 20 日～21 日.
- ✧ 青木佑真, 石井紀代, 工藤知宏, 繁野麻衣子, 竹房あつ子, 吉瀬章子, 「多様なサービスを柔軟に提供する光伝送網設計の一手法」, SSOR2018, 群馬, 日本, 2018 年 8 月 29 日～31 日.
- ✧ 高橋直希, 吉瀬章子, 「自転車による配回送を考慮したワンウェイ型モビリティシェアリング最適化」, SSOR2018, 群馬, 日本, 2018 年 8 月 29 日～31 日.
- ✧ Yuzhu Wang and Akiko Yoshise, “Acceleration of the Lagrangian-DNN method for a class of QOPs,” International Symposium on Mathematical Programming 2018, Bordeaux, France, July 1-6, 2018.

◆ その他：なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - (全学) 学長補佐
 - (全学) 保育施設委員会委員

(研究科) 運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
(専攻) 社会工学専攻長, 施設委員会委員
(学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)
Pacific Journal of Optimization, Editorial Board
国際会議 ICOTA 2019 実行委員長
日本オペレーションズ・リサーチ学会 副会長
日本オペレーションズ・リサーチ学会 表彰委員長
日本オペレーションズ・リサーチ学会 数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員
論文査読 : Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, 等
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
日本学術会議 連携会員
茨城県 情報通信事業者雇用促進事業者補助金審査会委員
科学技術振興機構 竜ヶ崎第一高等学校 SSH 運営指導委員会 委員長

氏 名	渡辺 俊	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻・環境科学専攻（生命環境科学研究科）		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築情報学、都市情報学、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
基本製図／住環境計画実習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ
大学院 空間情報科学／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／社会システム工学専攻 7人／研究生 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「デザイン思考における記号操作の意味的構造と実践的役割に着目するデザイン知の探求」（分担）
社会工学コモンズ・データバンクプロジェクト「コンパクトシティを目指した都市デザイン戦略のための都市構造評価指標の探求」

◆ 著書・論文等：

Akihiro Kawabe, Shun Watanabe : AN ANALYSIS OF MIXED LAND USE TOWARD DESIGNING THE COMPACT CITY, Proceedings of the 23rd International Conference of the Association for Computer-Aided Architectural Design Research in Asia (CAADRIA) 2018/Volume 2, pp.493-502, 2018-05

渡辺俊：デジタル・モデュロール3、第41回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2018年12月

川邊晃大・渡辺俊：情報量損失最小化法を応用した相対的人口集中地区の抽出ー都市縮小・拡大市町村数の経年変化分析ー、第41回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2018年12月

周韜、渡辺俊：上海中心市街地における Gated Community が飲食店への徒歩到達アクセシビリティに与える影響、第41回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2018年12月

下重尚也・渡辺俊：ソーシャルメディアの投稿写真からみた地域特性に関する考察、第41回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2018年12月

長谷川隼・渡辺俊：媒介中心性を用いた歩行者の回遊行動に関する検討 ―Walkability 指標の計測へ向けて―、第 41 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2018 年 12 月

◆ 学会発表等：

下重尚也、渡辺俊：ソーシャルメディアの位置情報を用いた観光行動の分析 茨城県を対象として、2018 年度 日本建築学会大会 [東北]、2018 年 9 月

長谷川 隼、渡辺俊：施設・サービスへのアクセス性に基づく Walkability 指標の計測 つくば中心部を事例として、2018 年度 日本建築学会大会 [東北]、2018 年 9 月

◆ その他：

デザイン科学学術調査、パリ建築大学

第 2 回 デザイン科学数理知能シンポジウム、コーディネーター、日本建築学会大会

第 5 回 建築情報学会準備会議、コメンテーター

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

教育社会連携推進室長

サービス工学学位プログラムリーダー

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻 運営委員、コンピュータ委員

社会工学類 運営委員、コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

日本建築学会情報システム利用技術本委員会幹事

日本建築学会デザイン数理知能研究小委員会委員

日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG 主査

他

氏 名	渡邊 真一郎	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	国際総合学類		
研究分野	産業・組織心理学、組織行動論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：産業・組織心理学、行動調査法、組織行動論
- ◆ 指導学生数：

学類 2 名（国際総合学類生）

社会工学専攻前期博士課程 3 名

社会工学専攻後期博士課程 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

Chouchane, H.M., & Watanabe, S. (2018). The Distinction between Surface and Deep Adjustment to Intercultural Adaptive Demands and the Role of Motivation in the Prediction of Adaptive Dissonance and Effort. *The Japanese Association of Administrative Science 21st Annual Convention Proceedings (Nihon Keiei Kodo Kagaku Gakkai Dai 21-kai Nenji Taikai Ronbun-shu)*, 201-206.

Watanabe, S., Li, J., & Kanazawa Y. (2018) Favorable Social Exchange As a Subcomponent of Continuance Commitment: Evidence in Japan and China. *Association for Psychological Science 30th Convention, May 27, 2018*, San Francisco, USA. (<https://www.psychologicalscience.org/conventions/archive/2018-2>)

Kanazawa, Y., Kwantes, C., & Watanabe, S. (2019). Examining Trustworthiness in Canadian and Japanese Cultural Context: How to quantify the distance between two groups, each consisting of 3-dimensionally estimated objects?, Workshop on likelihood and Bayesian Method, Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University (March 8).

Kanazawa, Y., Kwantes, C., & Watanabe, S. (2019). Examining Trustworthiness in Canadian and Japanese Cultural Context: Grouping by K-means clustering or Chinese restaurant process Bayesian nonparametric mixture modeling?, Twentieth Annual Meeting of Nonparametric Statistical Analysis and Bayesian Statistics, International Christian University (March 27).

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
図書委員会（全学）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 運営委員会委員
予算委員会（国際総合学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Cornell University Admissions Amabassodor Association Network 日本支部委員
『経営行動科学』機関誌編集委員長